

令和6年度 病院経営現状アンケート調査



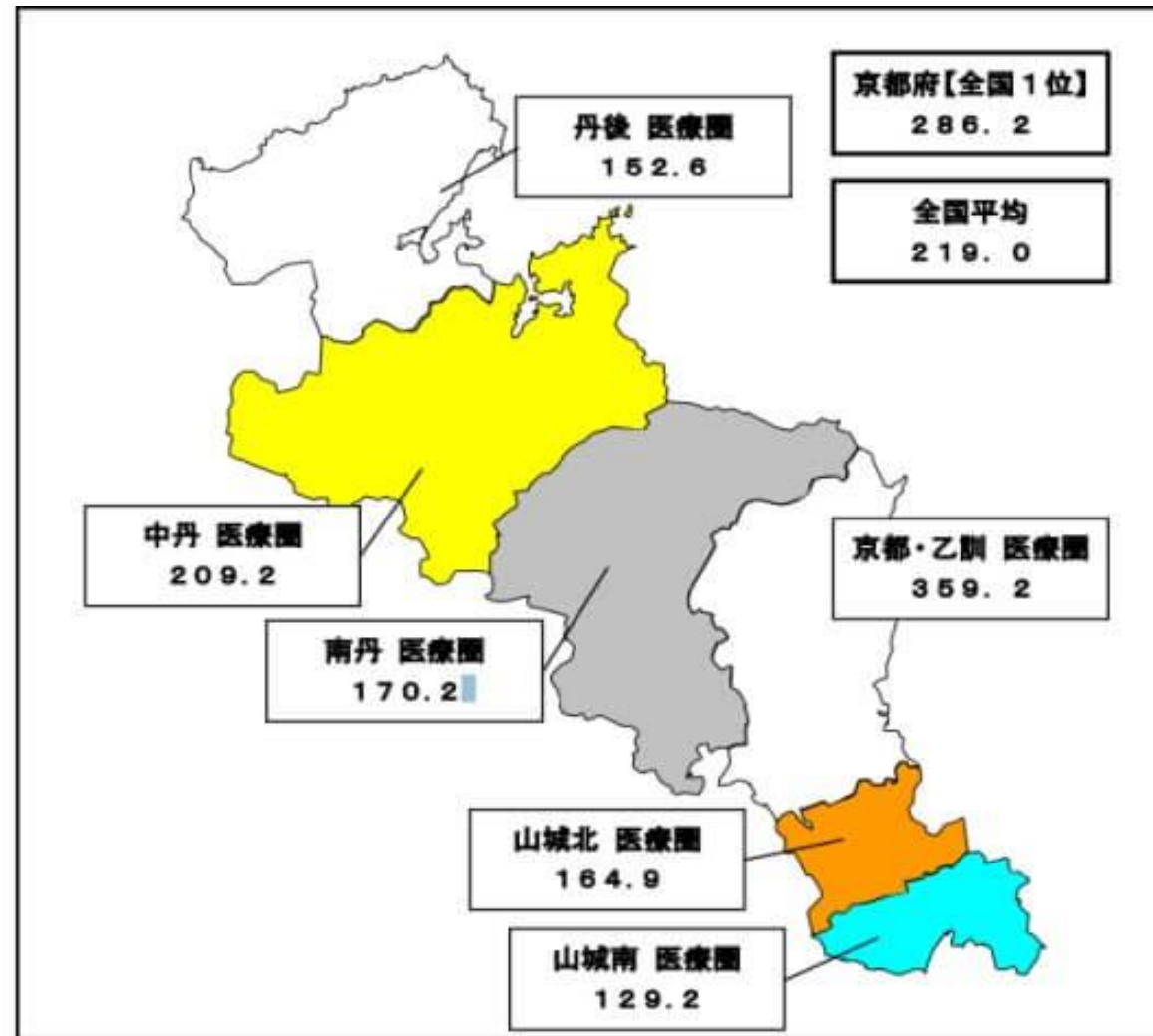
一般社団法人

京都府病院協会

【アンケート調査の基本情報】

- ・ 調査期間 : 令和6年11月8日～12月20日
- ・ 会員病院数 : 54病院
- ・ 回答数 : 29病院
- ・ 回答率 : 54%

京都府病院協会アンケートー2021～2024前半の状況ー



(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」※平成22年12月31日現在)

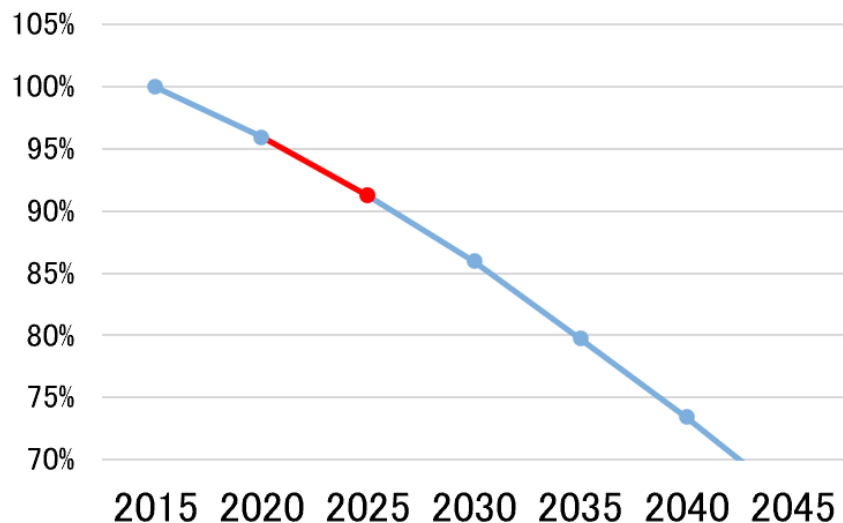
調査結果

- 丹後・中丹・南丹地域は31.0%（9病院）、京都・乙訓地域は44.8%（13病院）、山城北・山城南地域は24.1%（7病院）であった。

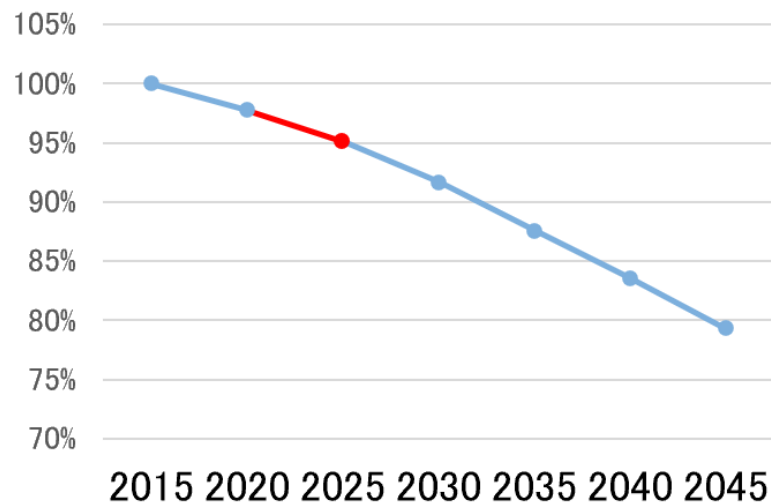
表 医療圏・許可病床数別の回答病院数（2025年2月6日時点）

	～99床	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床～	合計	割合
丹後・中丹・南丹	1	3	0	4	1	0	9	31.0%
京都・乙訓	0	2	2	3	1	5	13	44.8%
山城北・南	0	2	2	2	1	0	7	24.1%
合計	1	7	4	9	3	5	29	100.0%

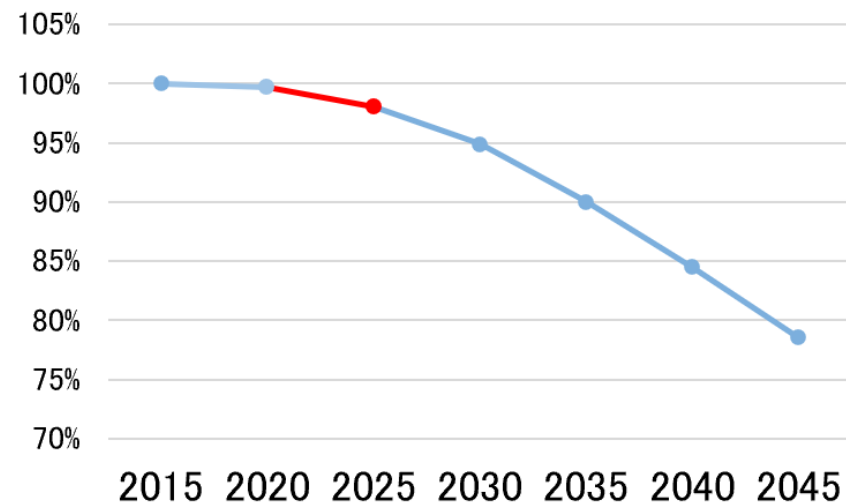
26京都府 2601丹後 外来患者推計



26京都府 2602中丹 外来患者推計

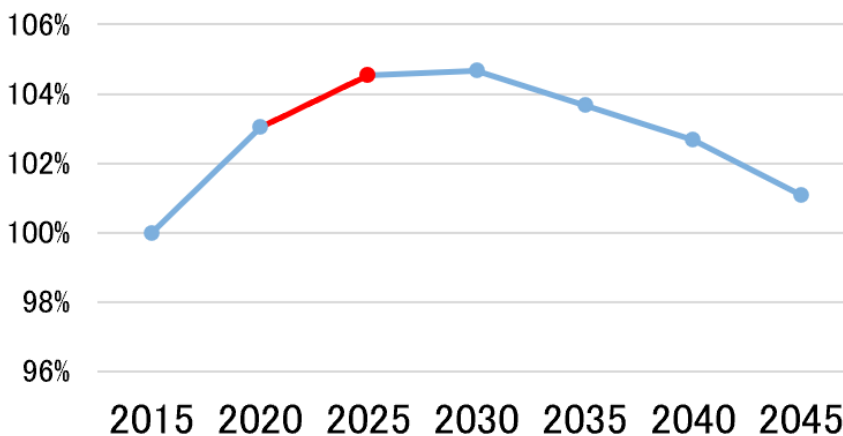


26京都府 2603南丹 外来患者推計

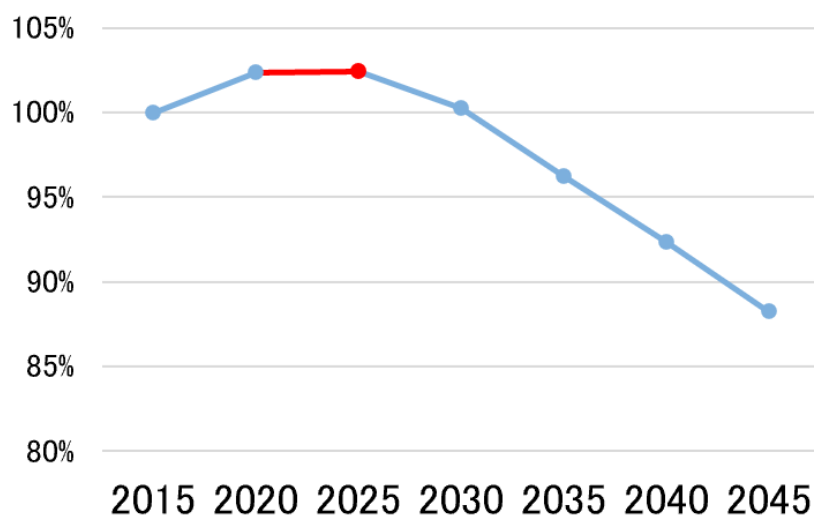


出典 AJAPApplus401_ALL

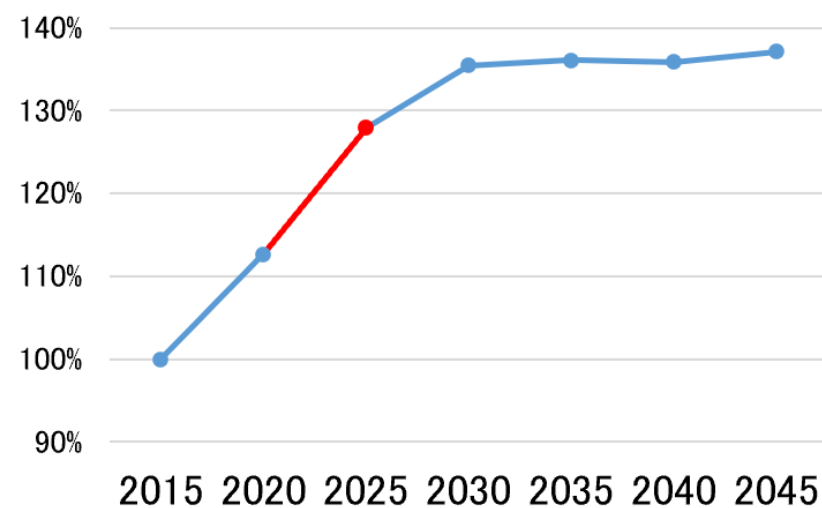
26京都府 2604京都・乙訓 外来患者推計



26京都府 2605山城北 外来患者推計



26京都府 2606山城南 入院患者推計



医療圏別の結果 許可病床数別の結果 京都府全体の結果

外来延患者数の2019年度増減率(%)

外来収入の2019年度増減率(%)

救急患者数の2019年度増減率(%)

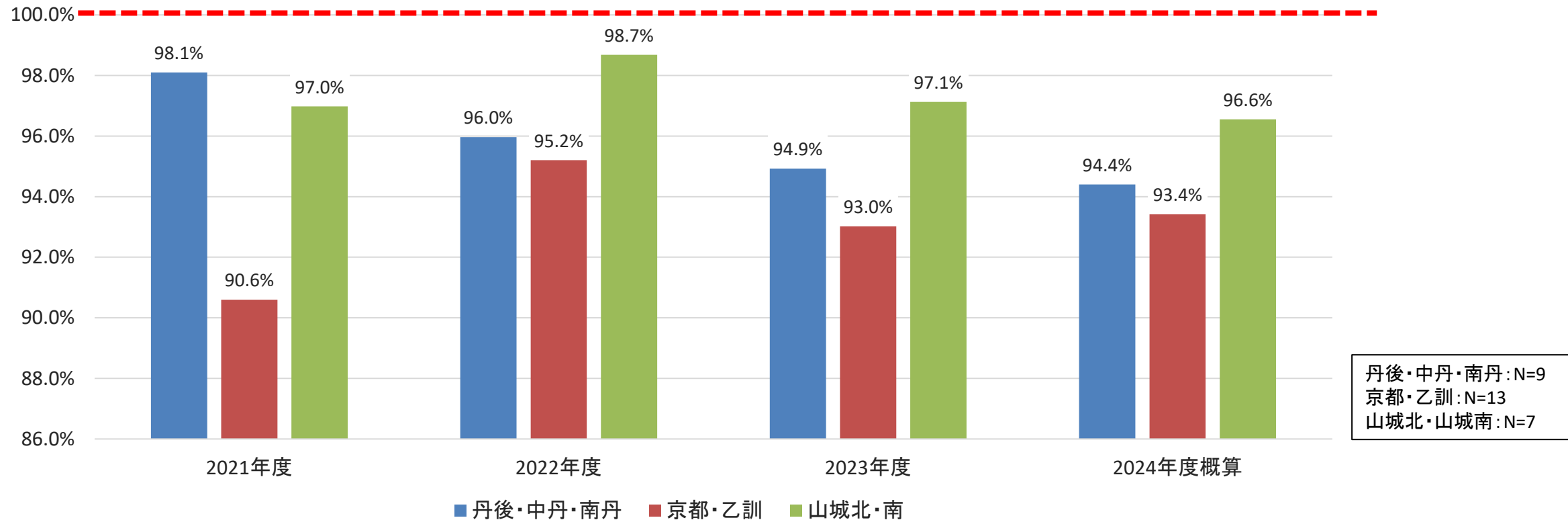
京都府全体の救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数の2019年度増減率(%)

収入合計の2019年度増減率(%)

医療圏別の外来延患者数の2019年度増減率(%)

- 北部はほぼ推計通りの減少
- 京都・乙訓、南部はCOVID19の影響で2021年度は減少したが2022年回復したもののその後も2019年度のレベルに戻っていない

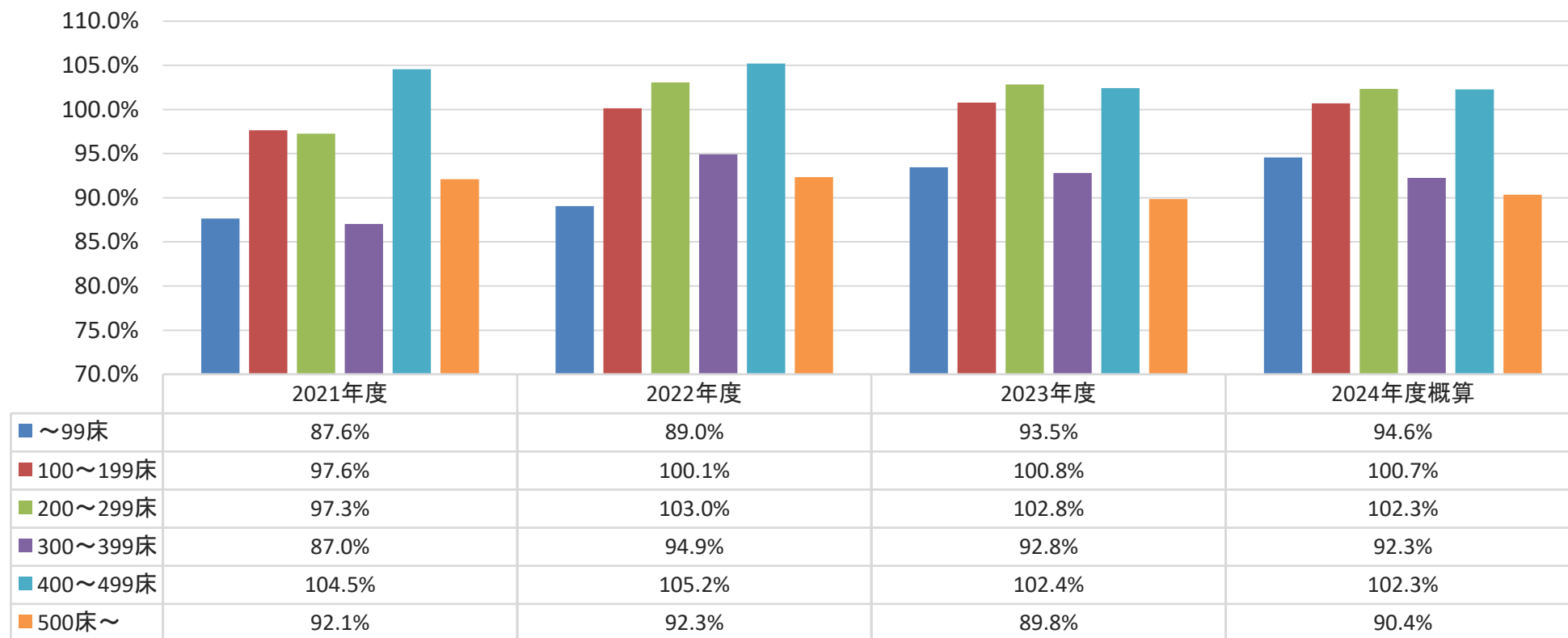
京都府全体の医療圏別外来延患者数増減率



許可病床数別の外来延患者数の2019年度増減率(%)

- 500床未満の病院は外来患者数が2019年レベルに戻った病院と減少した病院が混在する
- 500床以上の病院は著しい減少が続いており2019年レベルに戻っていない

京都府全体の許可病床数別外来延患者数増減率

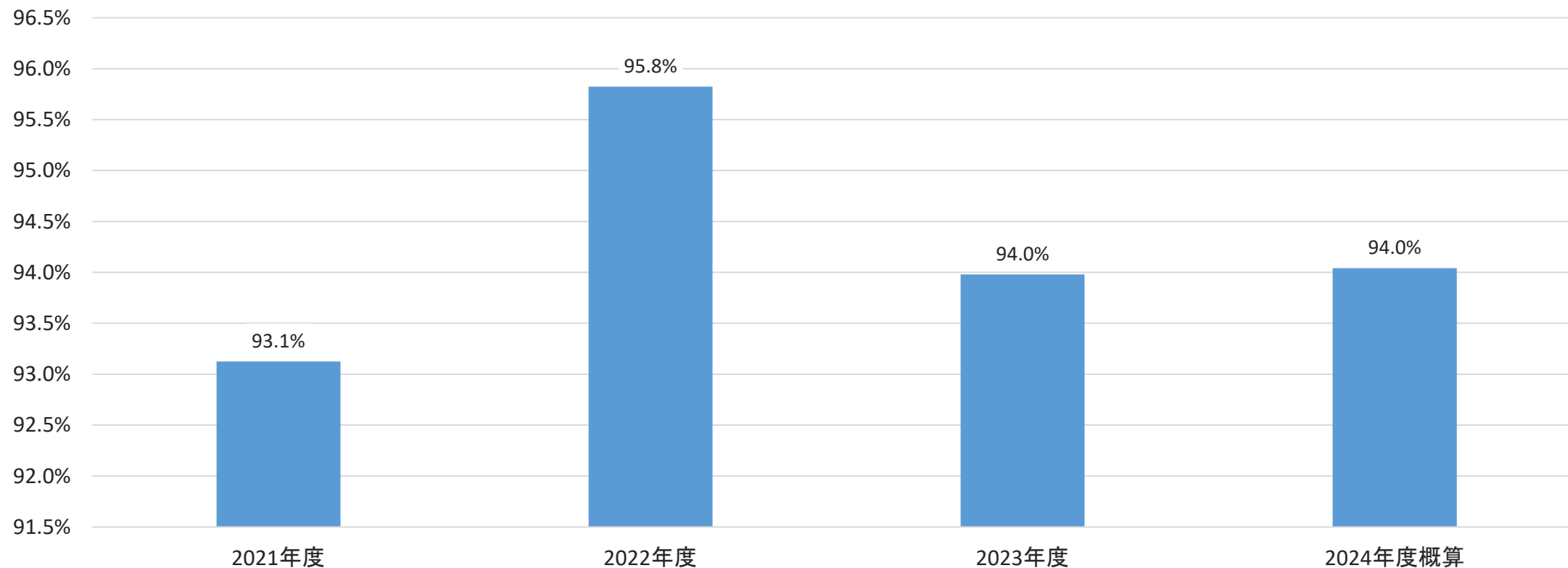


~99床 : N=1
 100~199床 : N=7
 200~299床 : N=4
 300~399床 : N=9
 400~499床 : N=3
 500床～ : N=5

京都府全体の外来延患者数の2019年度増減率(%)

- 本来は増加する予定であったが2021年度は著しく減少し2022年度は回復する傾向を示したもののその後もCOVID-19の影響で推計通りの増加なく2019年レベルにもならなかった

京都府全体の外来延患者数増減率

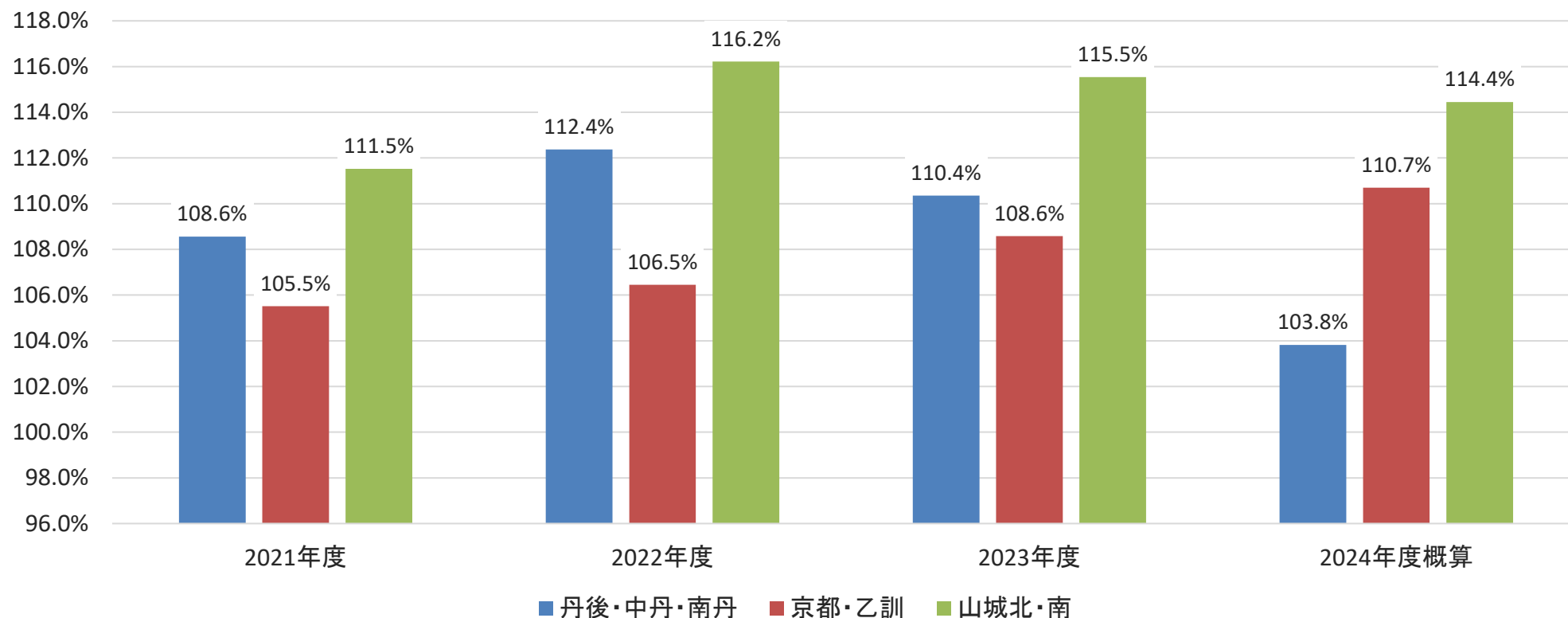


N=29

医療圏別の外来収入の2019年度増減率(%)

- 外来収入はどの地域でも増加している
- 北部・南部は2022年度が一番収入が多くその後は2019年度より多いが漸減している
- 京都・乙訓は毎年増加している

京都府全体の医療圏別外来収入増減率

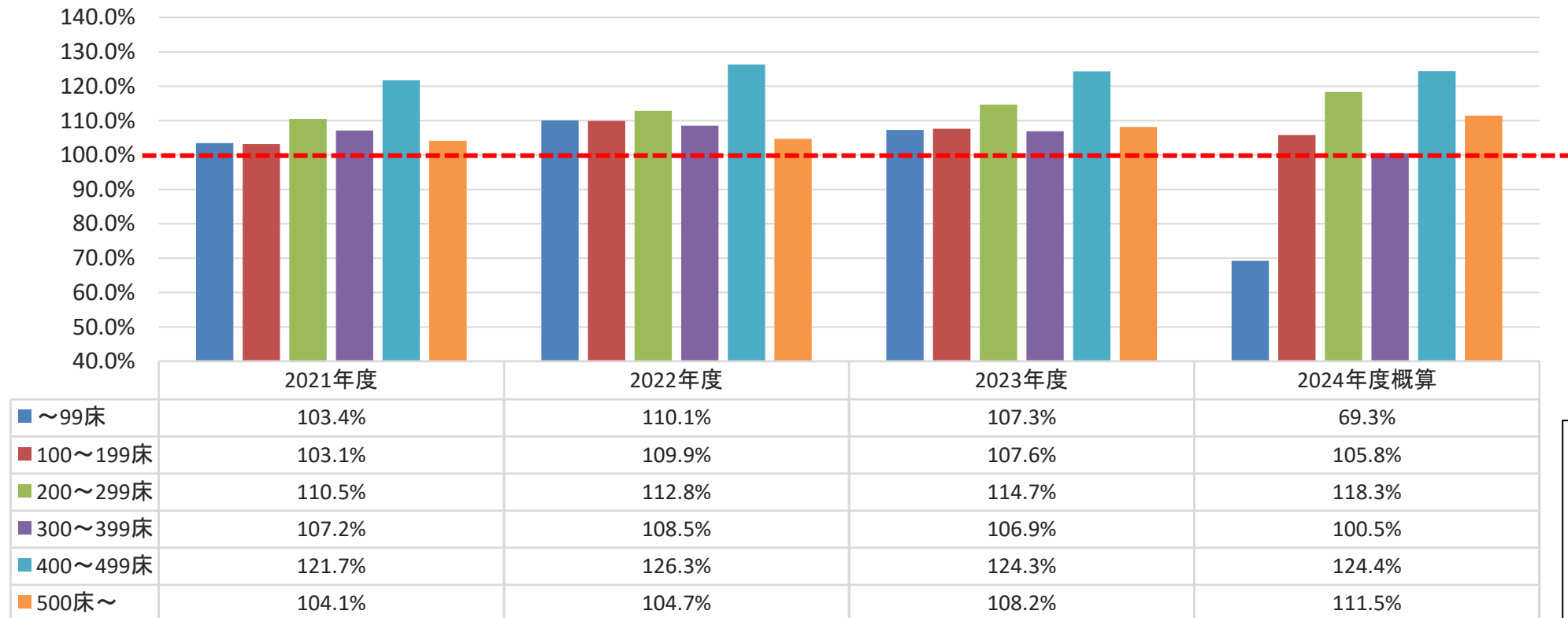


丹後・中丹・南丹:N=9
京都・乙訓:N=13
山城北・山城南:N=7

許可病床数別の外来収入の2019年度増減率(%)

- 2024年度は評価は難しいが2023年度までは2019年度に比し増加している

京都府全体の許可病床数別外来収入増減率

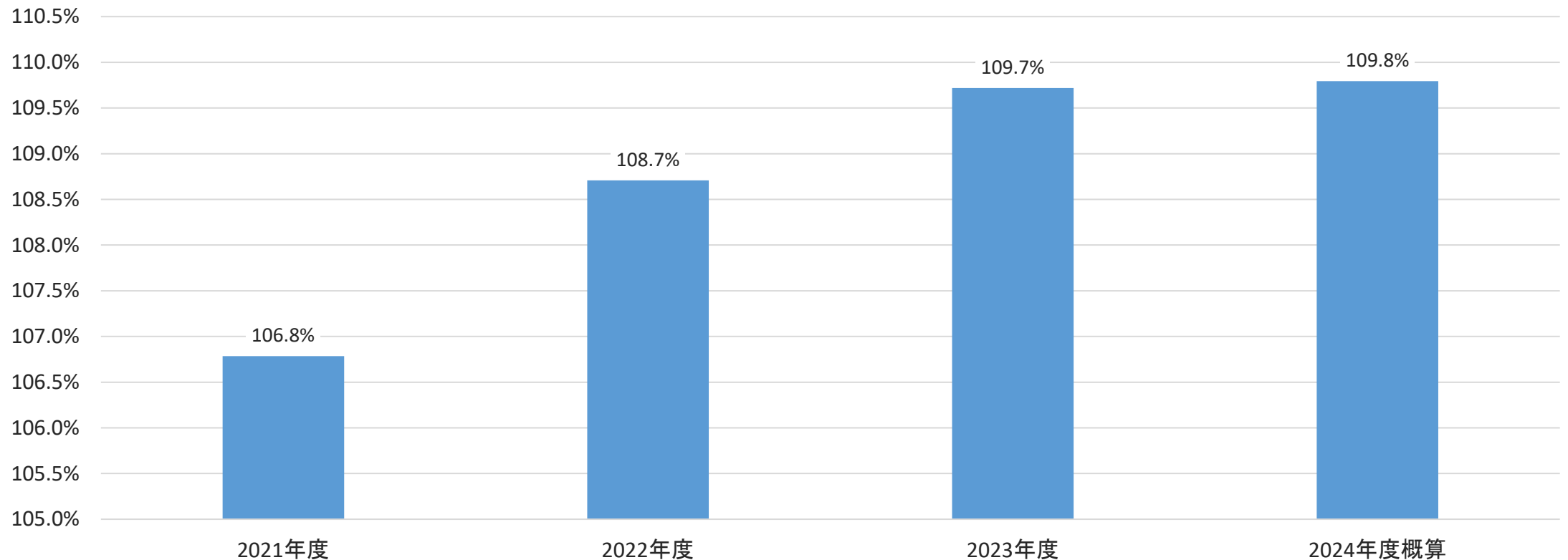


~99床 : N=1
 100~199床 : N=7
 200~299床 : N=4
 300~399床 : N=9
 400~499床 : N=3
 500床~ : N=5

京都府全体の外来収入の2019年度増減率(%)

- 増加は続くが増加率は漸減している
- 外来延患者数は減少していることから単価上昇が推察される

京都府全体の外来収入増減率

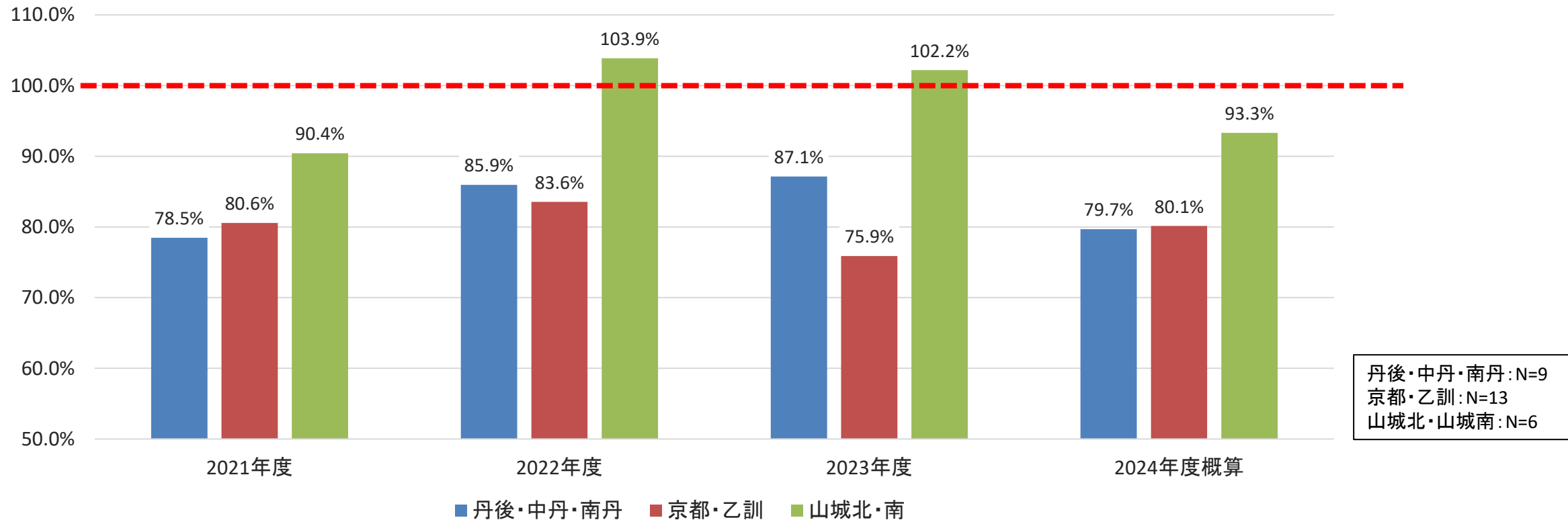


N=29

医療圏別の救急患者数の2019年度増減率(%)

- 京都・乙訓および北部は大きく減少し2019年レベルに達していない
- 南部は2022年度、2023年度増加したがそれ以外は2019年に達しなかった

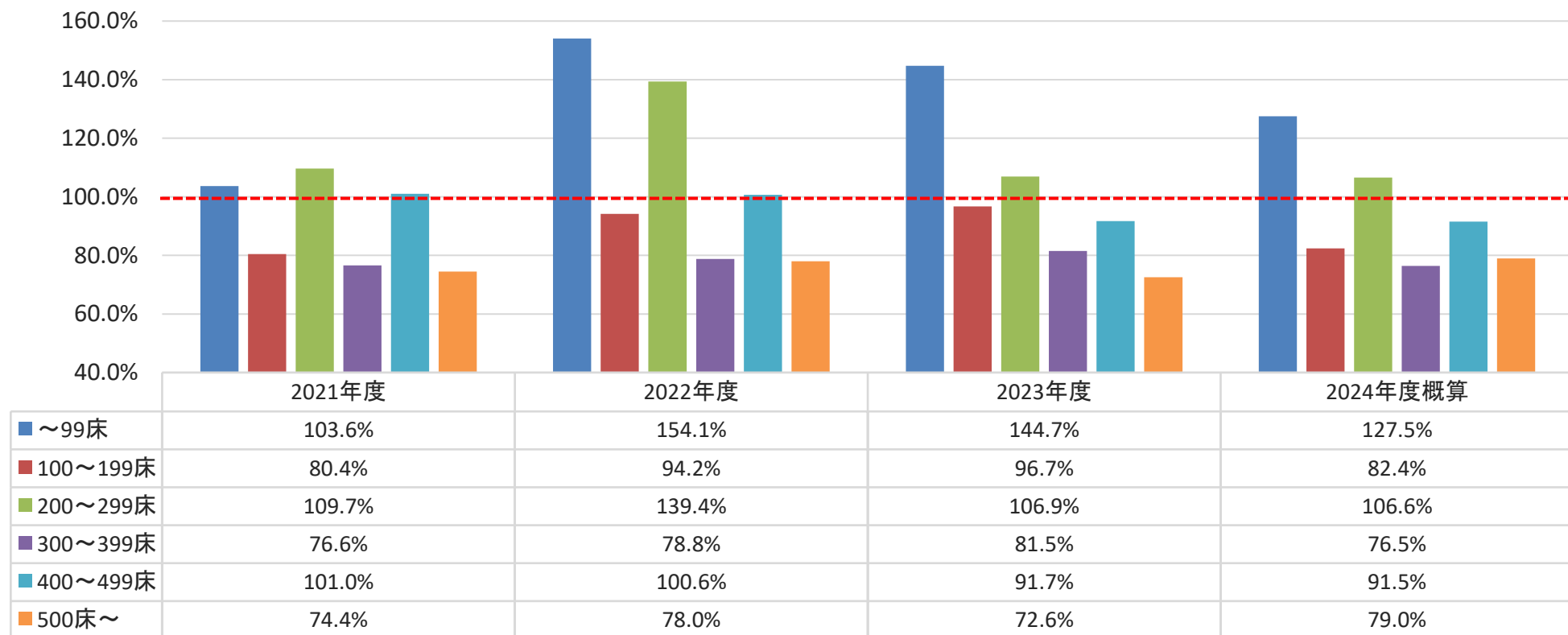
京都府全体の医療圏別救急患者数増減率



許可病床数別の救急患者数の2019年度増減率(%)

- この項目は病床別の評価は難しい

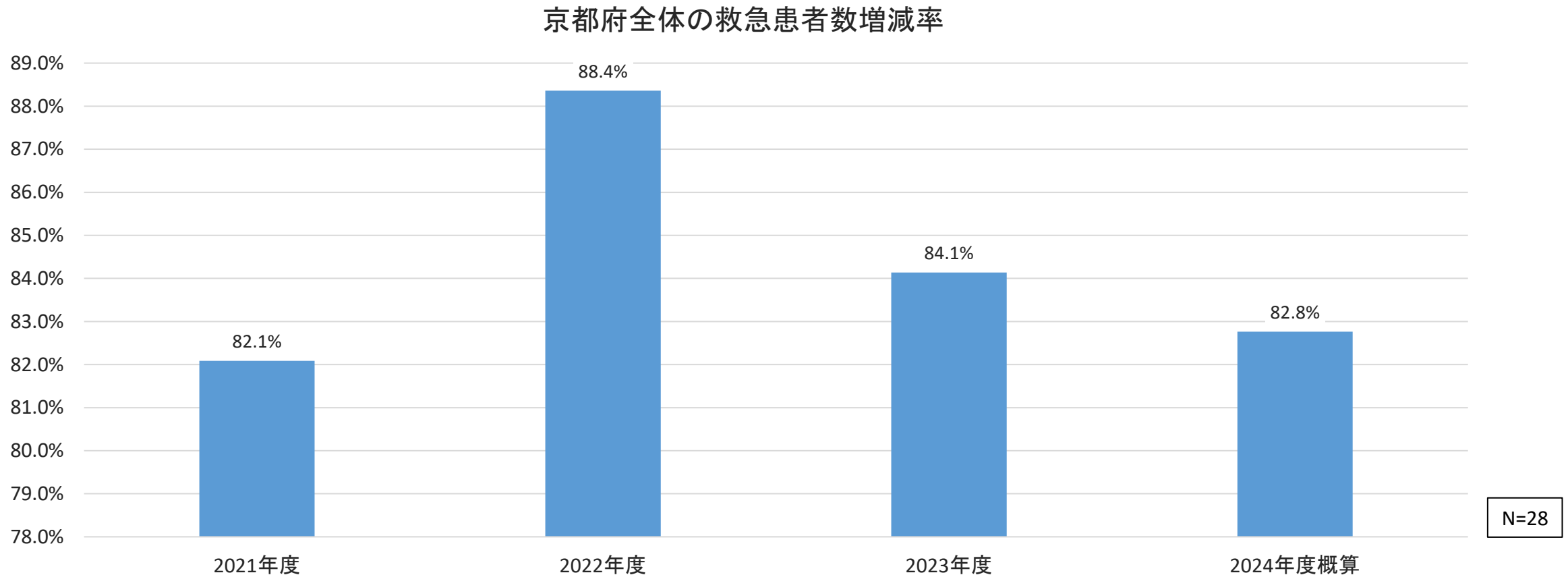
京都府全体の許可病床数別救急患者数増減率



~99床 : N=1
 100~199床 : N=6
 200~299床 : N=4
 300~399床 : N=8
 400~499床 : N=3
 500床~ : N=5

京都府全体の救急患者数の2019年度増減率(%)

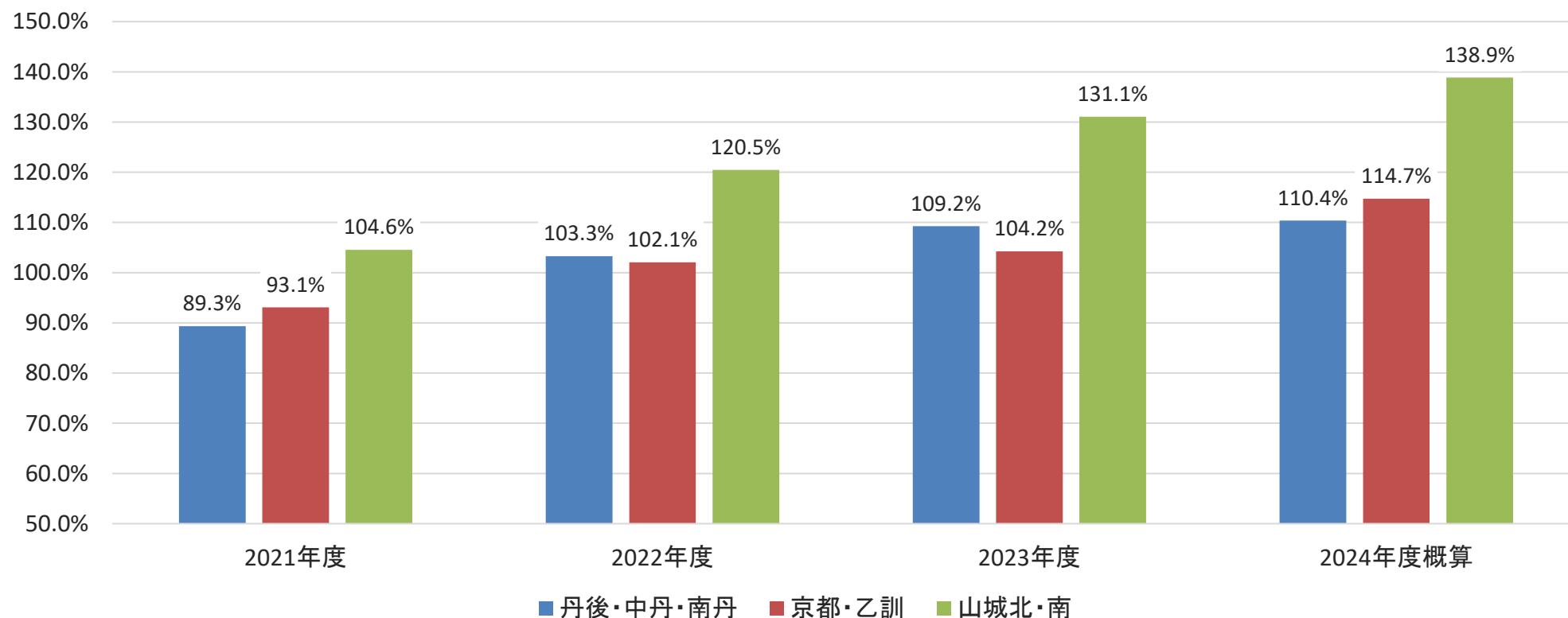
- 全体として2019年度より減少した
- 2022年度は2019年度の88.4%に増加したがその後また減少した



医療圏別の救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数の2019年度増減率(%)

- 北部および京都・乙訓は2021年度減少したが2022年度以降は増加している
- 南部はずっと増加している

京都府全体の医療圏別救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数増減率

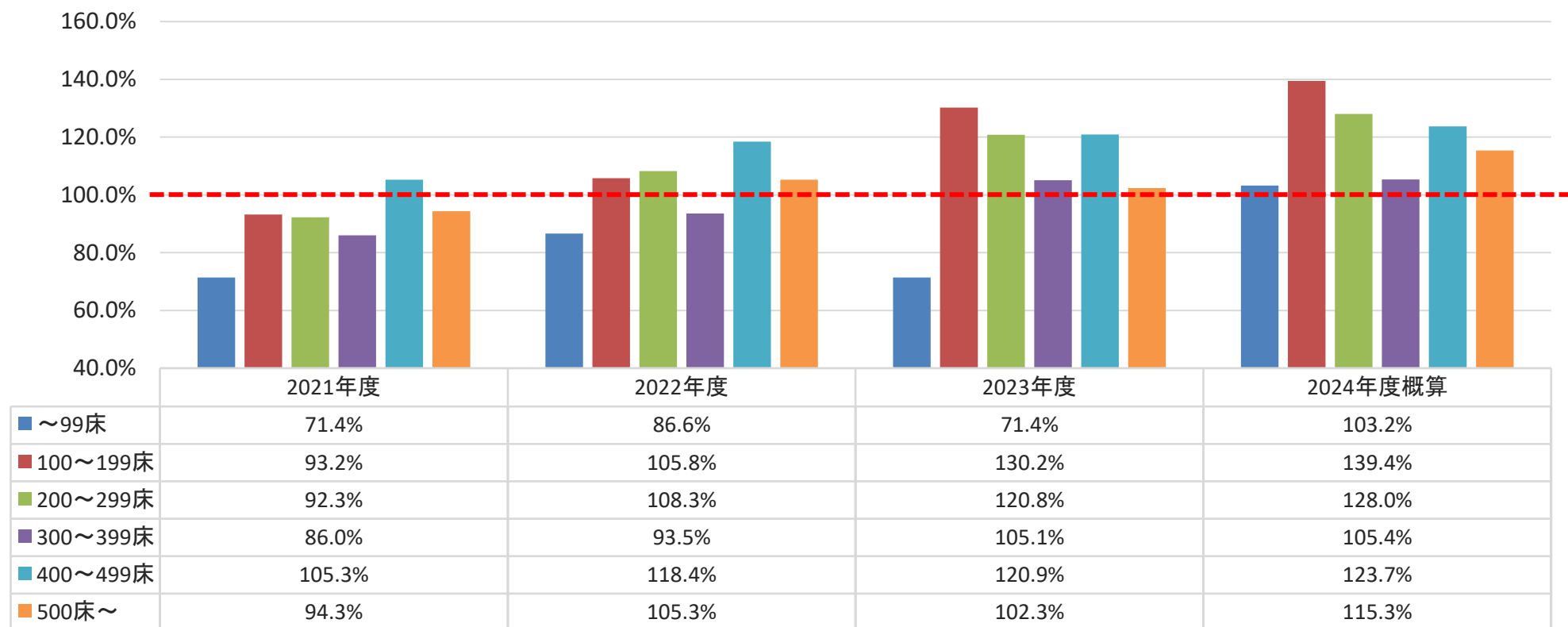


丹後・中丹・南丹:N=9
京都・乙訓:N=12
山城北・山城南:N=6

許可病床数別の救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数の2019年度増減率(%)

- どの病床数でも徐々に増加している
- 2024年度前半期では2019年度を超過した

京都府全体の許可病床数別救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数増減率

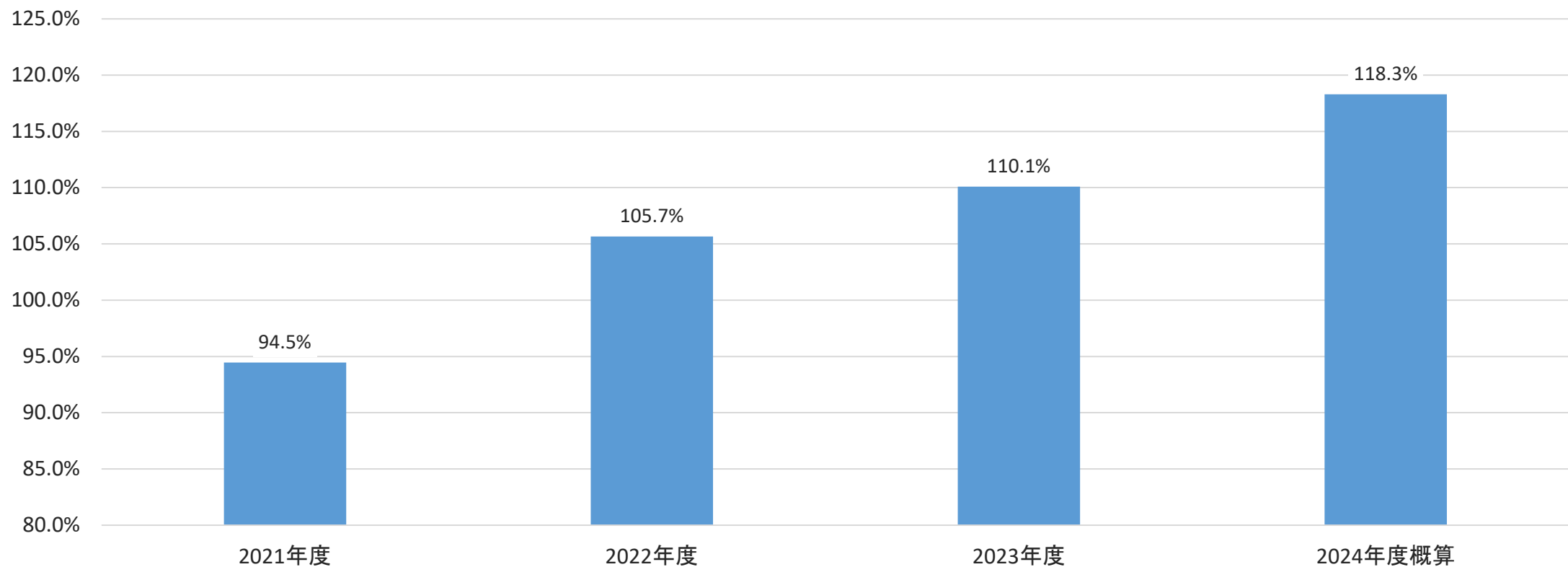


～99床 : N=1
 100～199床 : N=6
 200～299床 : N=4
 300～399床 : N=8
 400～499床 : N=3
 500床～ : N=5

京都府全体の救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数の2019年度増減率(%)

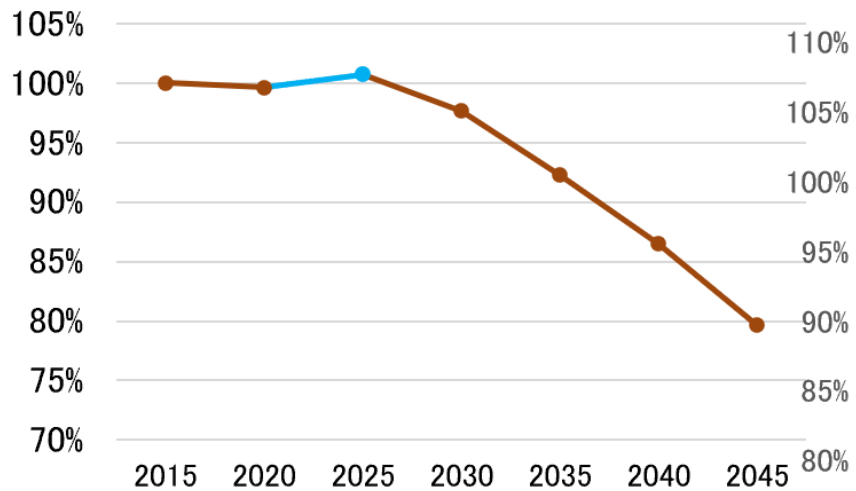
- 顕著に増加している

京都府全体の救急搬送患者(救急車・ドクヘリ)受入件数増減率

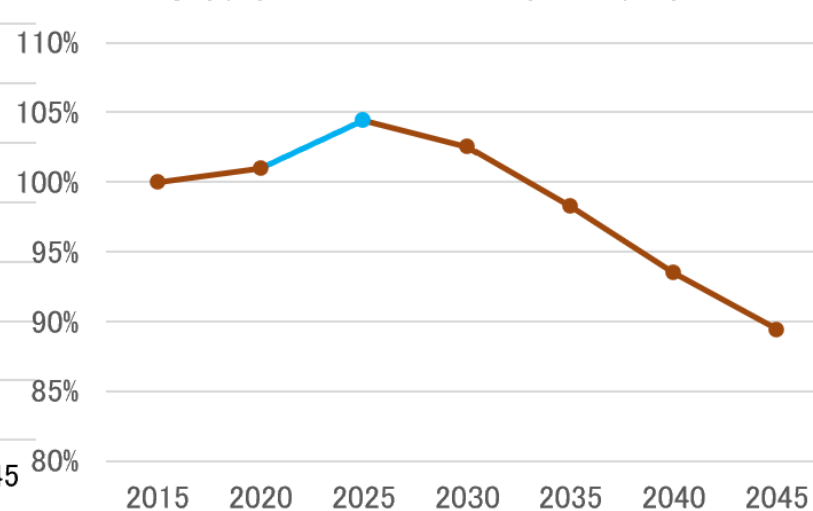


N=27

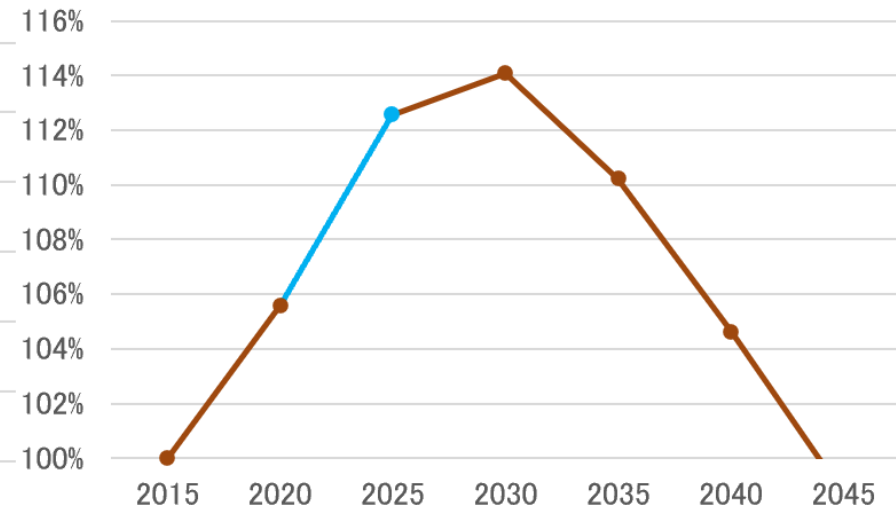
26京都府 2601丹後 入院患者推計



26京都府 2602中丹 入院患者推計

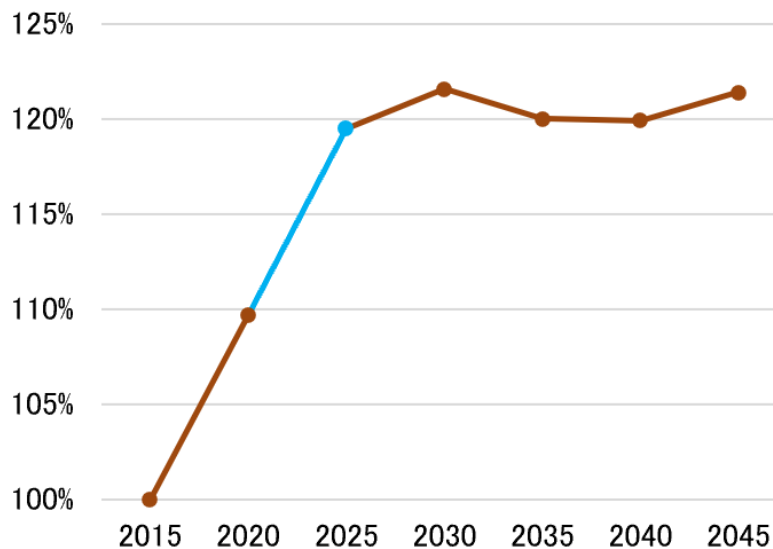


26京都府 2603南丹 入院患者推計

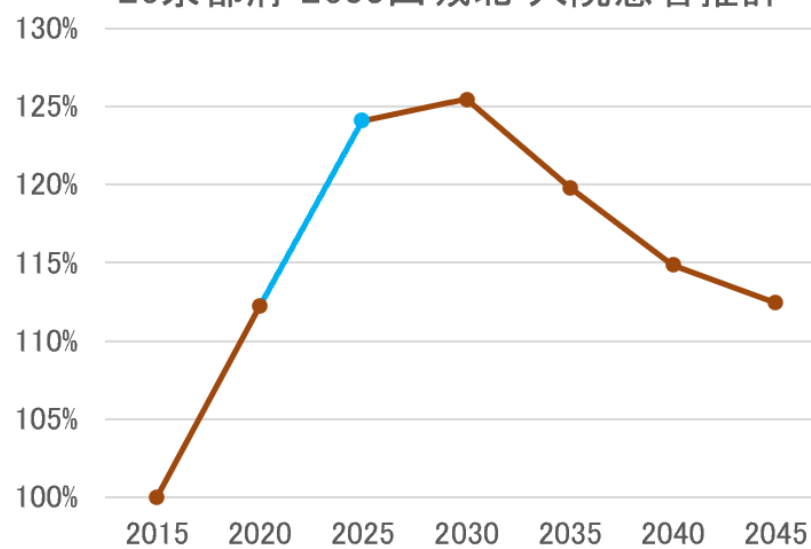


出典 AJAPApplus401_ALL

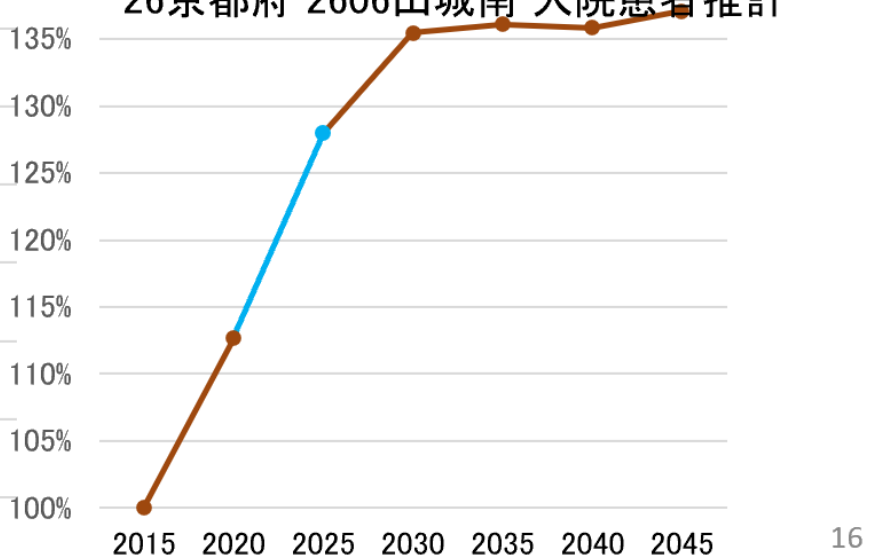
26京都府 2604京都・乙訓 入院患者推計



26京都府 2605山城北 入院患者推計



26京都府 2606山城南 入院患者推計



医療圏別の結果

許可病床数別の結果

京都府全体の結果

新入院患者数の2019年度増減率(%)

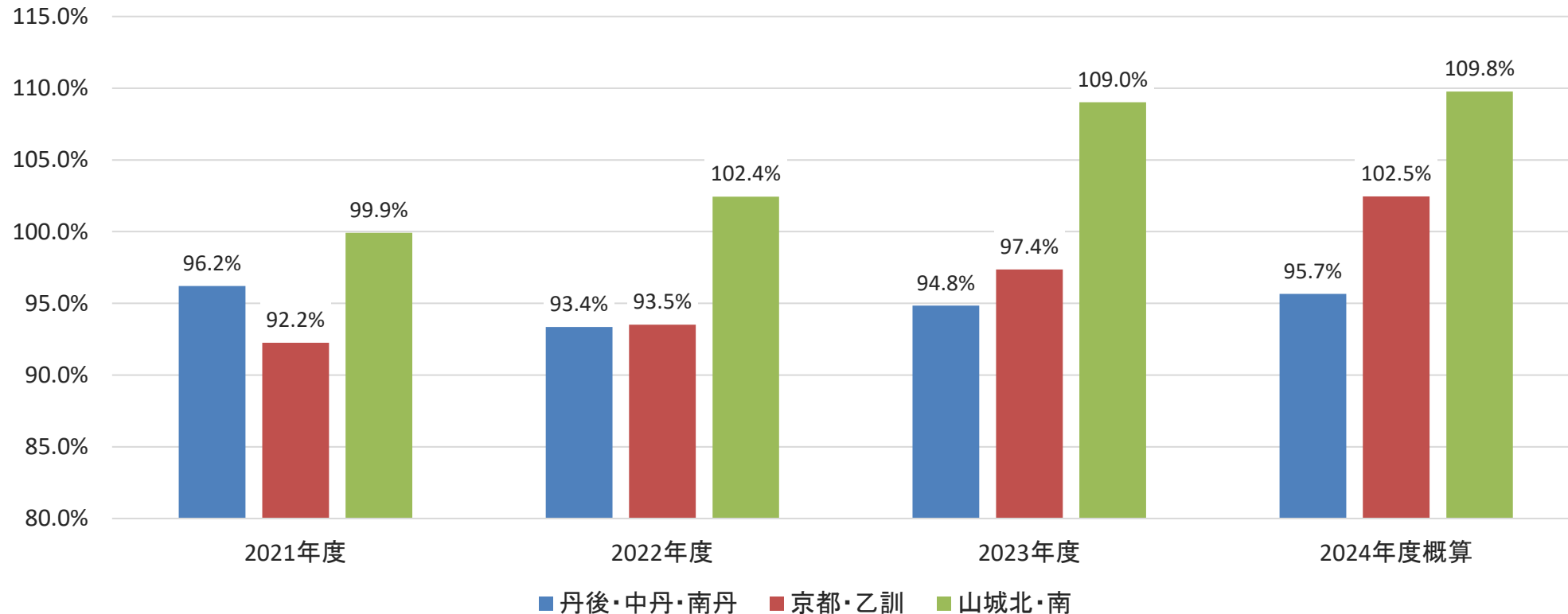
病床稼働率の2019年度増減率(%)

入院収入の2019年度増減率(%)

医療圏別の新入院患者数の2019年度増減率(%)

- 北部では2022年度が最低で少しずつ増加しているが2019年度より低値である
- 京都・乙訓では2021年度が最低で少しずつ増加しており2024年度は2019年度より多くなる可能性がある
- 南部では2022年度より増加がみられ続けている

京都府全体の医療圏別新入院患者数増減率

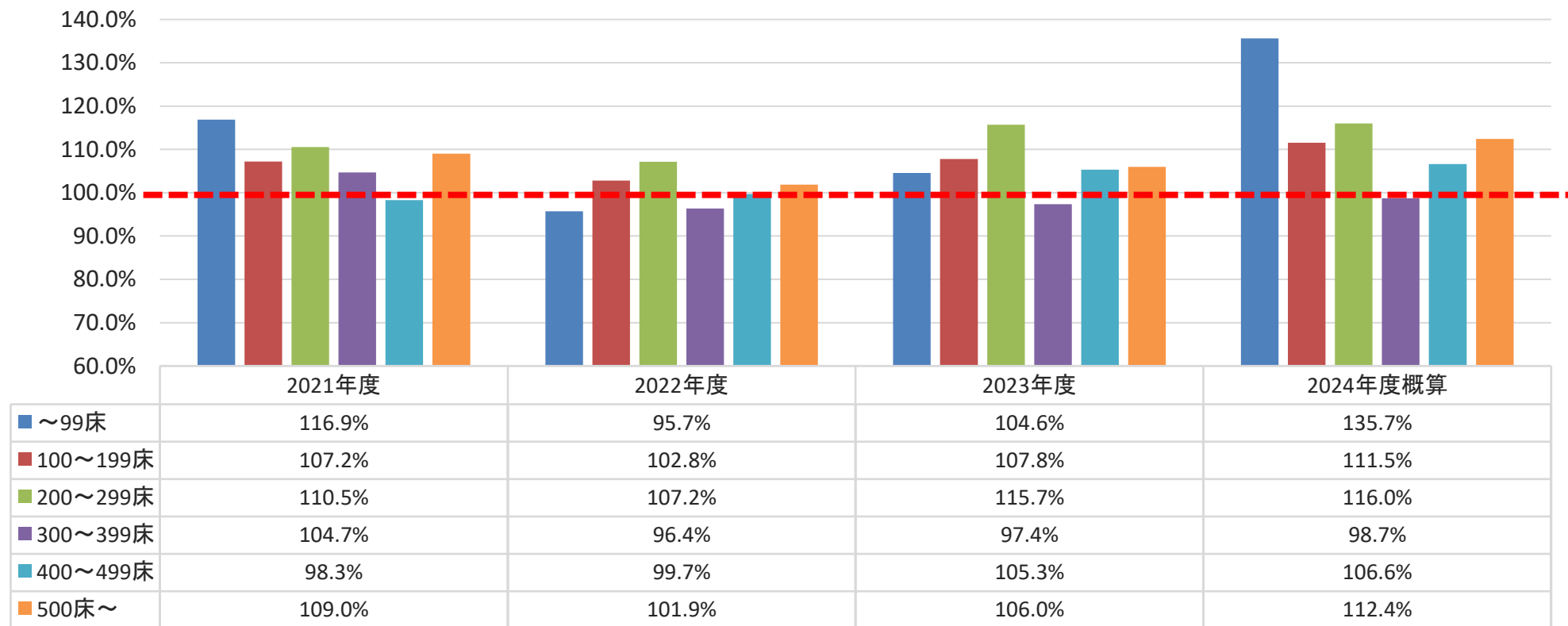


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の新入院患者数の2019年度増減率(%)

- 病床別には大きな違いはないが2024年度は多くの病院で2019年度を超える可能性がある

京都府全体の許可病床数別新入院患者数増減率

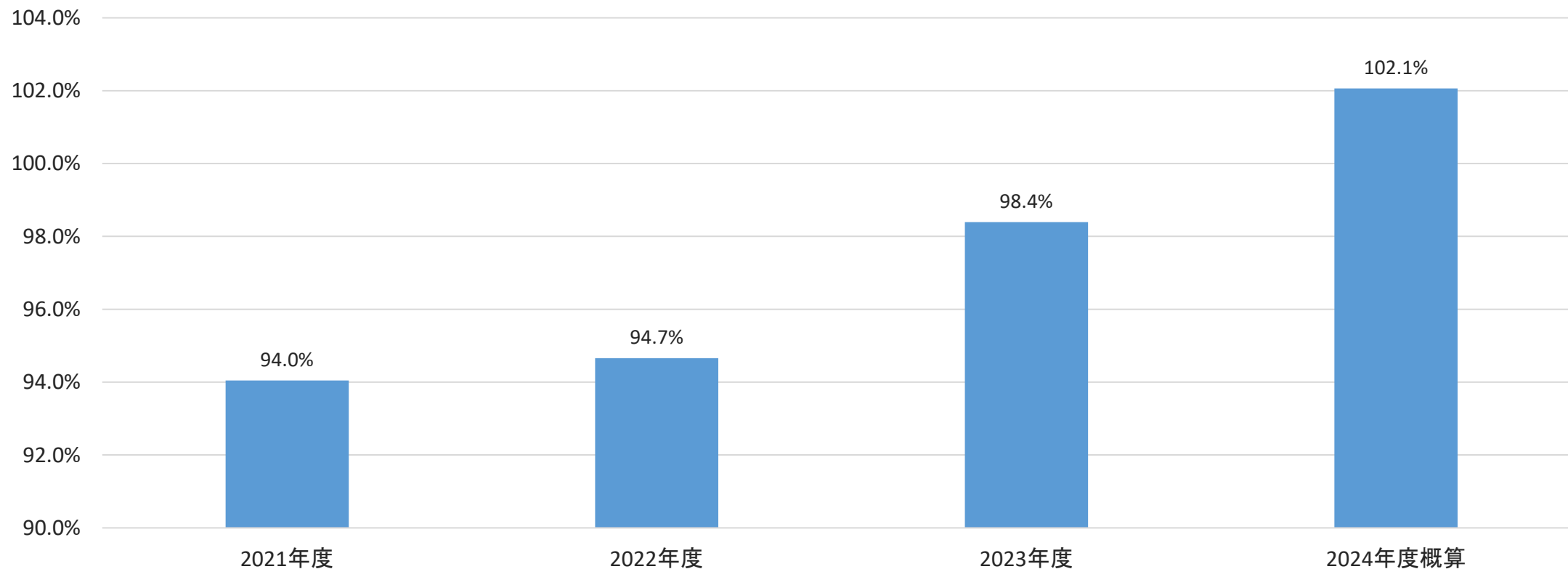


～99床 : N=1
 100～199床 : N=7
 200～299床 : N=4
 300～399床 : N=9
 400～499床 : N=3
 500床～ : N=5

京都府全体の新入院患者数の2019年度増減率(%)

- 2021年度は94%まで低下したが漸増し2024年度は2019年度を超える可能性が高い

京都府全体の新入院患者数増減率

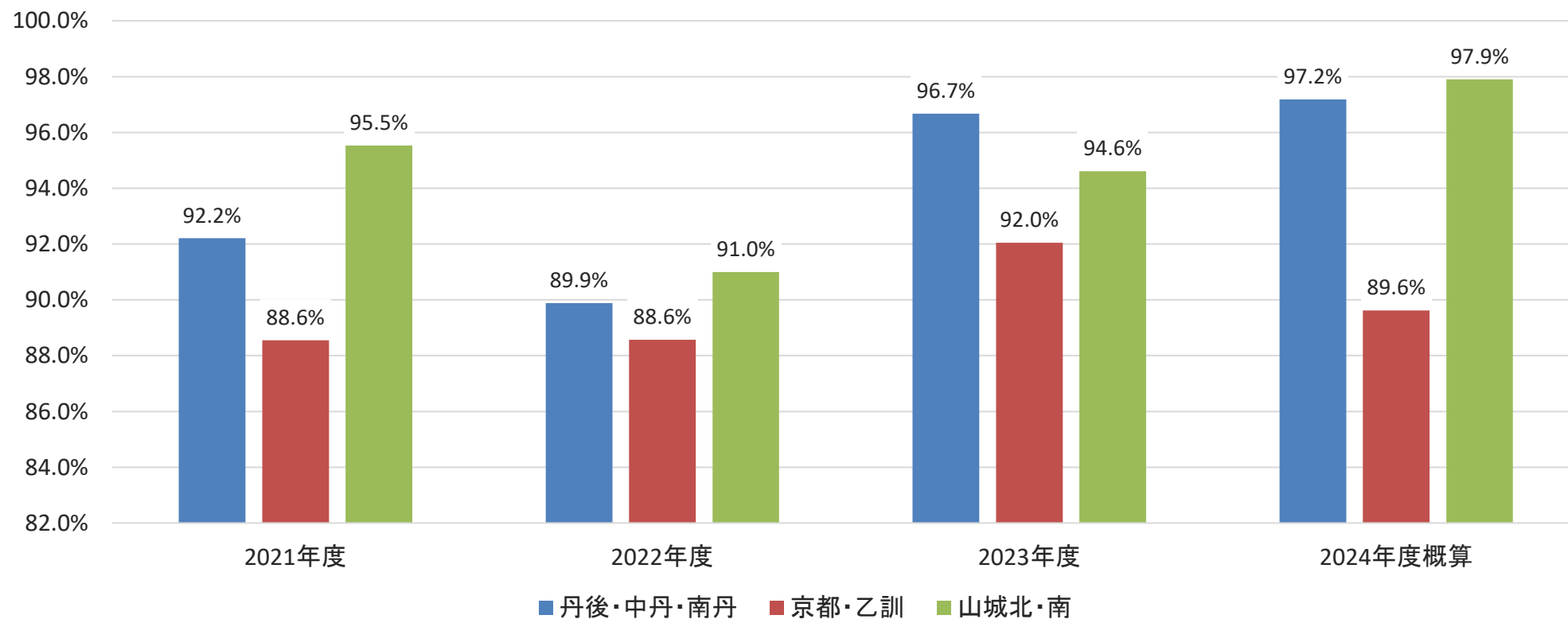


N=29

医療圏別の病床稼働率の2019年度増減率(%)

- どの地域も2019年度の数値には達しなかった
- 新入院の値を勘案するとこの期間に平均在院日数が短縮していることが推定される

京都府全体の医療圏別病床稼働率増減率

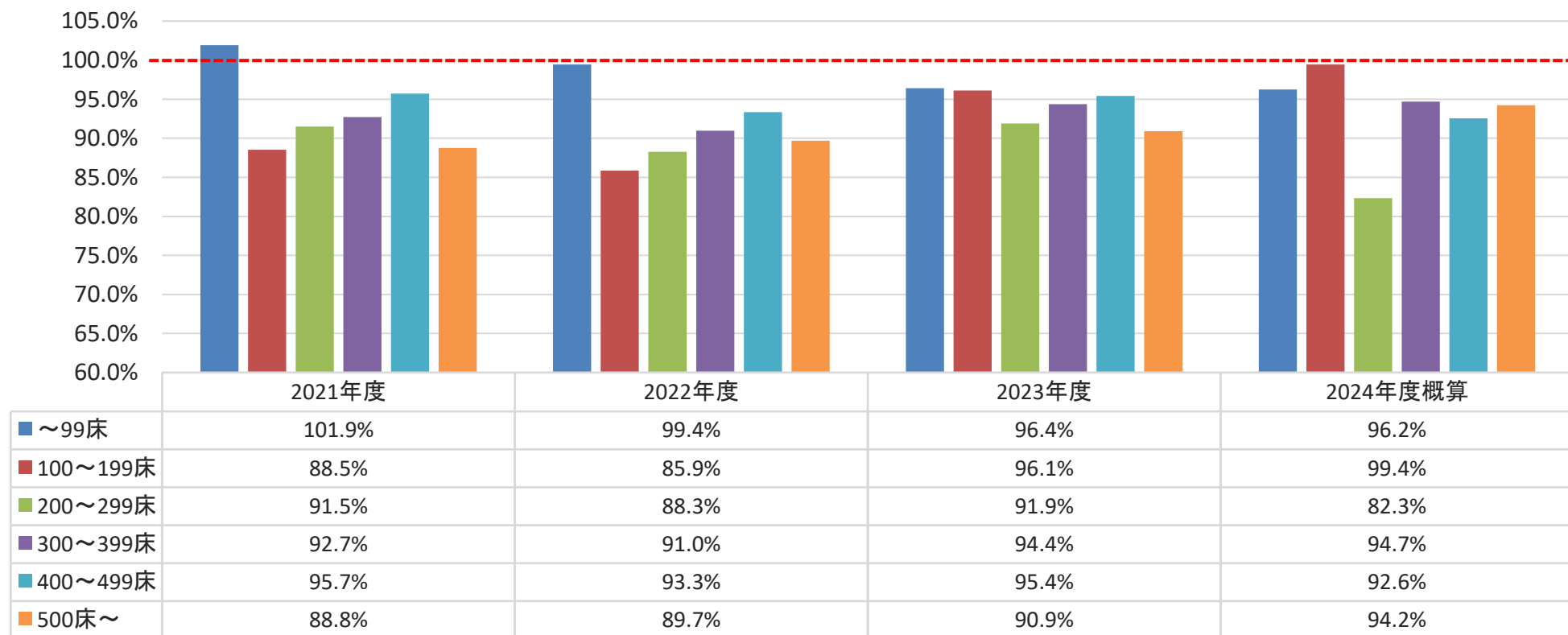


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の病床稼働率の2019年度増減率(%)

- 99床以下の病院以外はどの病床数の病院においても2019年度の値には達しなかった

京都府全体の許可病床数別病床稼働率増減率

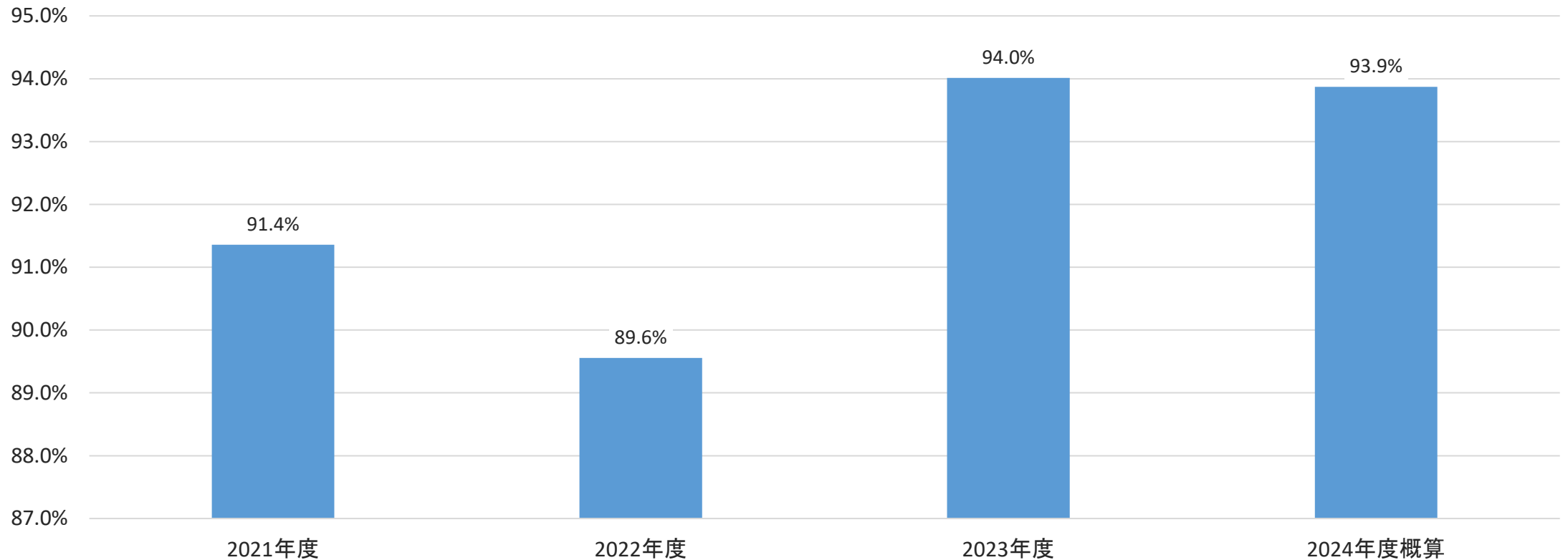


~99床 : N=1
 100~199床 : N=6
 200~299床 : N=4
 300~399床 : N=9
 400~499床 : N=3
 500床~ : N=5

京都府全体の病床稼働率の2019年度増減率(%)

- 2022年度を底としその後上昇しているが2019年度の値には達していない

京都府全体の病床稼働率増減率

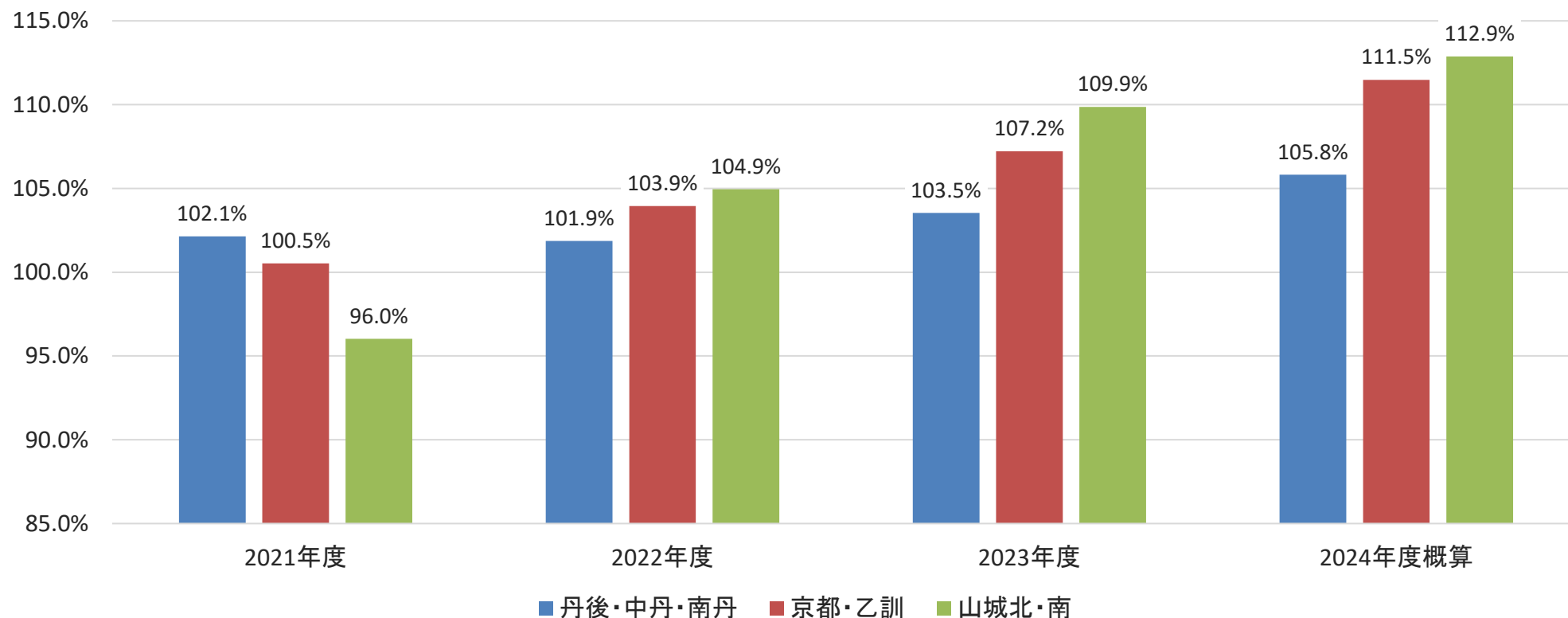


N=29

医療圏別の入院収入の2019年度増減率(%)

- 北部は2022年度を底としその後増加し、2019年度より常に多かった
- 京都・乙訓は2019年度の値を下回ることなく増加している
- 南部は2021年度は2019年より低下したがその後は2019年度の値を超え年次ごとに増加した

京都府全体の医療圏別入院収入増減率

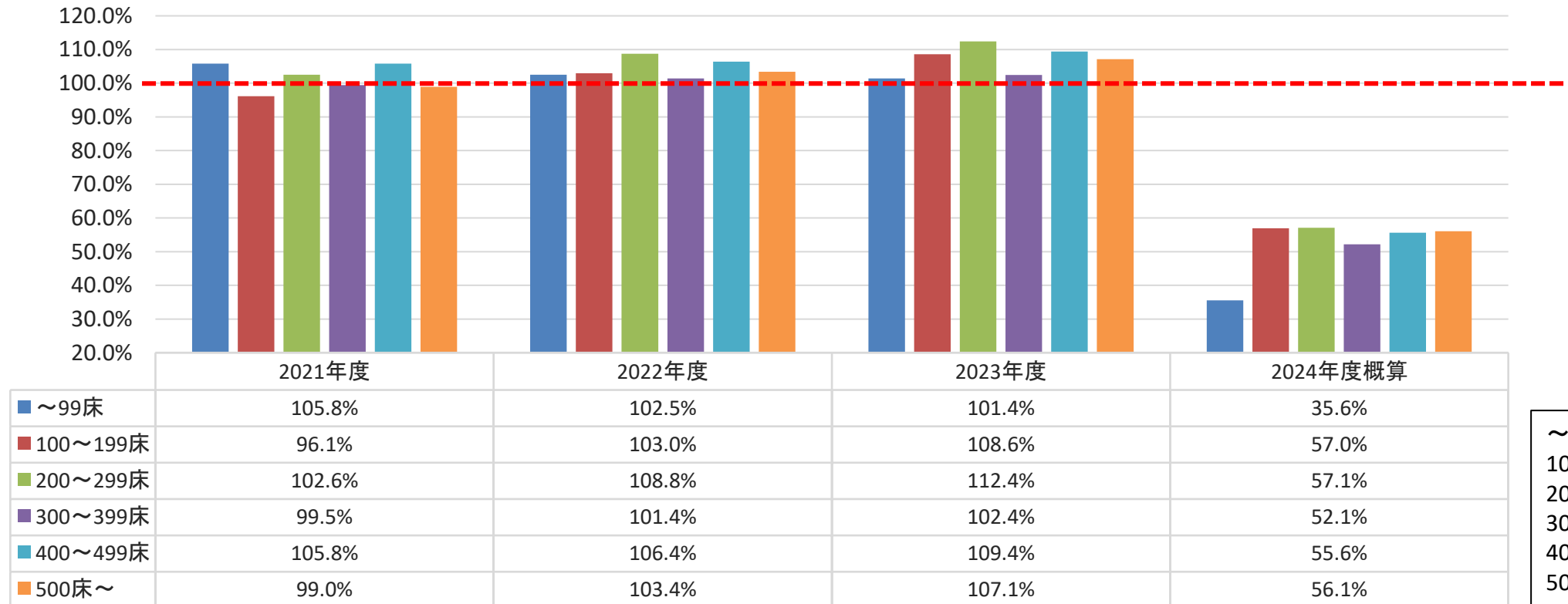


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の入院収入の2019年度増減率(%)

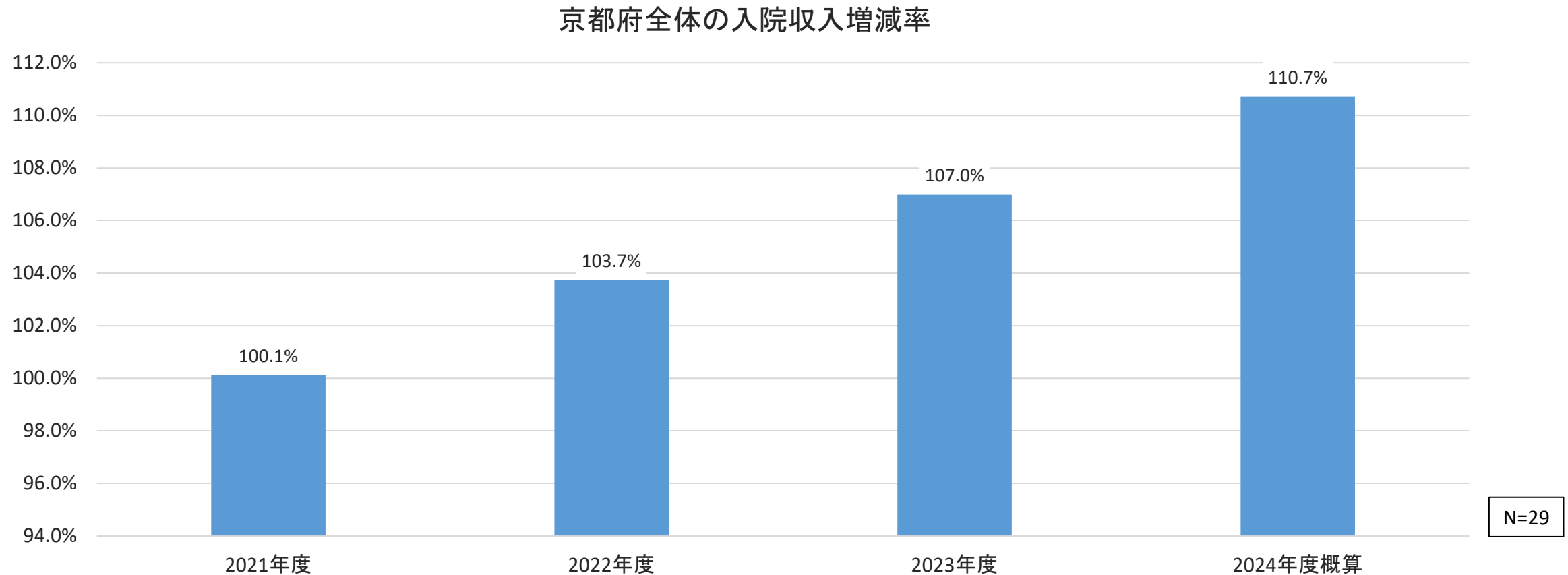
- 病床別に特徴なく2021年度は2019年度と大きく変わらず、それ以降は2019年度より病床数に関わらず増加した

京都府全体の許可病床数別入院収入増減率



京都府全体の入院収入の2019年度増減率(%)

- 2021年度も2019年度より少し多くその後も増加している



医療圏別の結果 許可病床数別の結果 京都府全体の結果

収入合計の2019年度増減率(%)

医業費用合計の2019年度増減率(%)

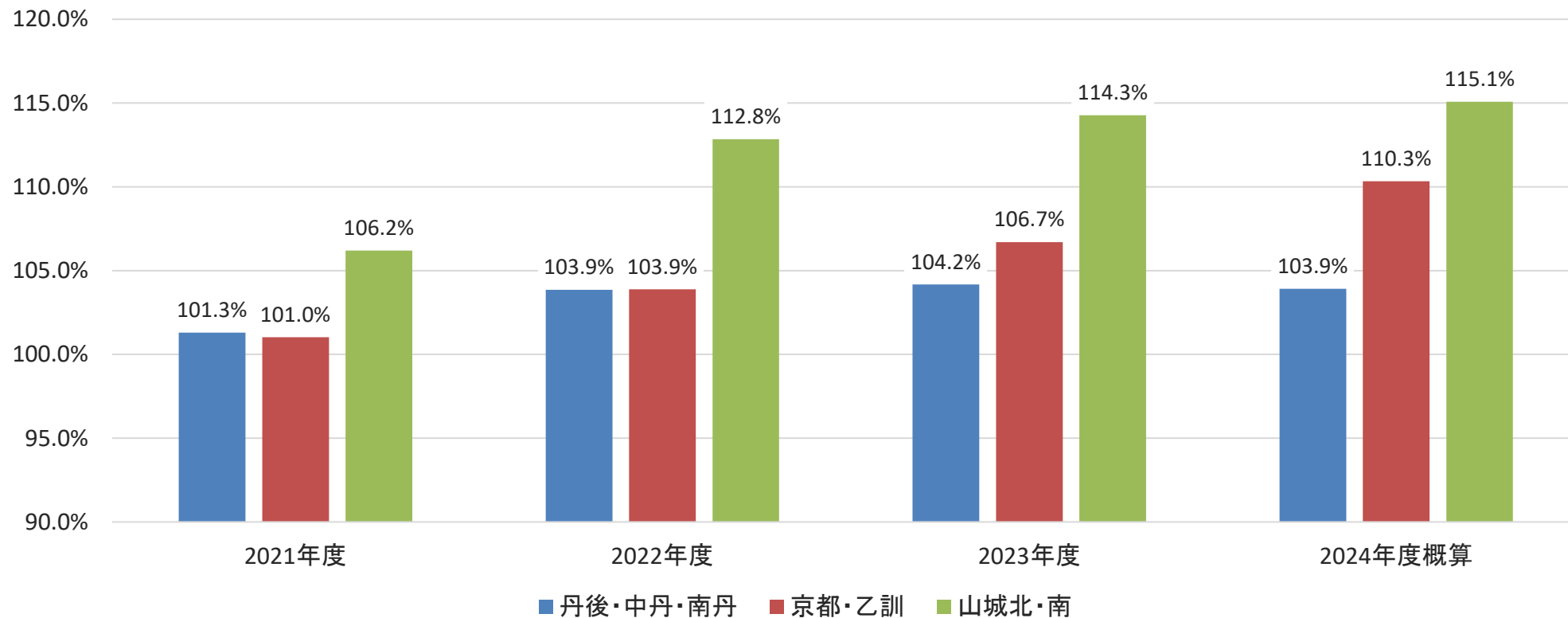
医業収支比率の比較(%)

経常収支比率の比較(%)

医療圏別の収入合計の2019年度増減率(%)

- どの地域も増加傾向にあるが南部が最も大きく京都・乙訓がそれに次ぐ

京都府全体の医療圏別収入合計増減率

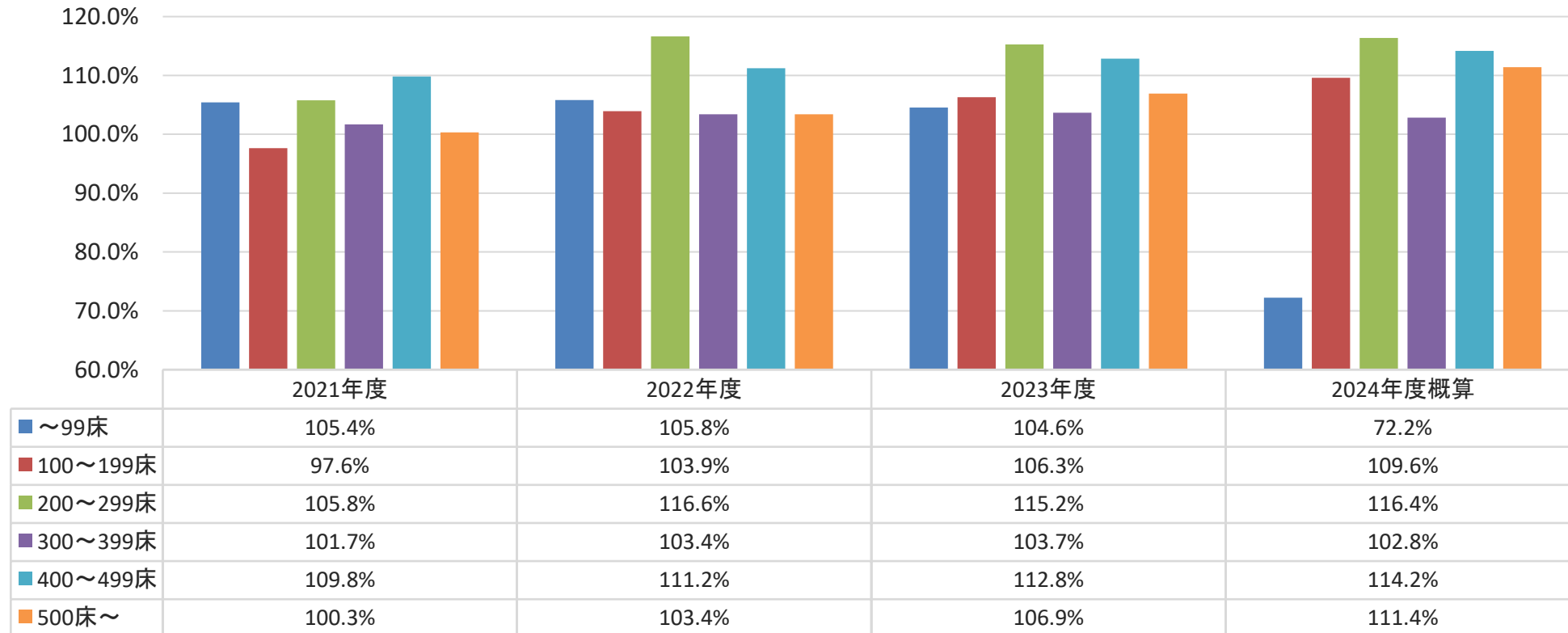


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の収入合計の2019年度増減率(%)

- 収入は増加しているが病床数による特徴は特に見られない

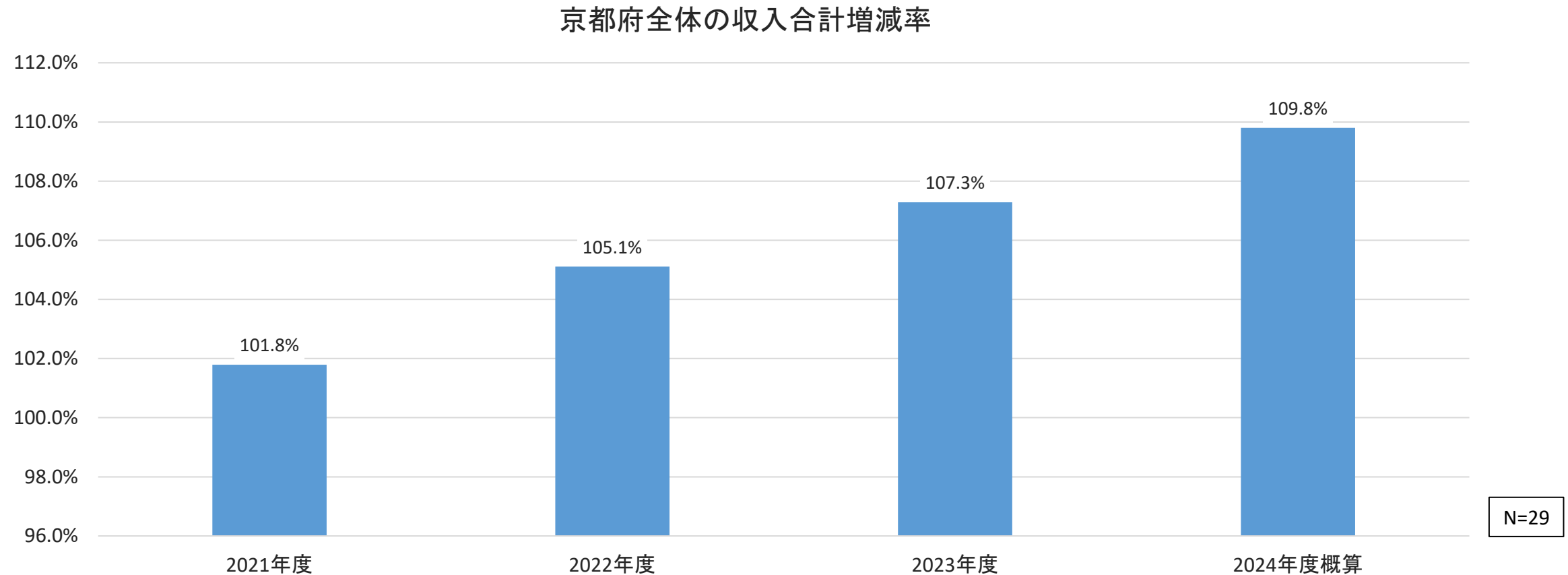
京都府全体の許可病床数別収入合計増減率



～99床 : N=1
 100～199床 : N=7
 200～299床 : N=4
 300～399床 : N=9
 400～499床 : N=3
 500床～ : N=5

京都府全体の収入合計の2019年度増減率(%)

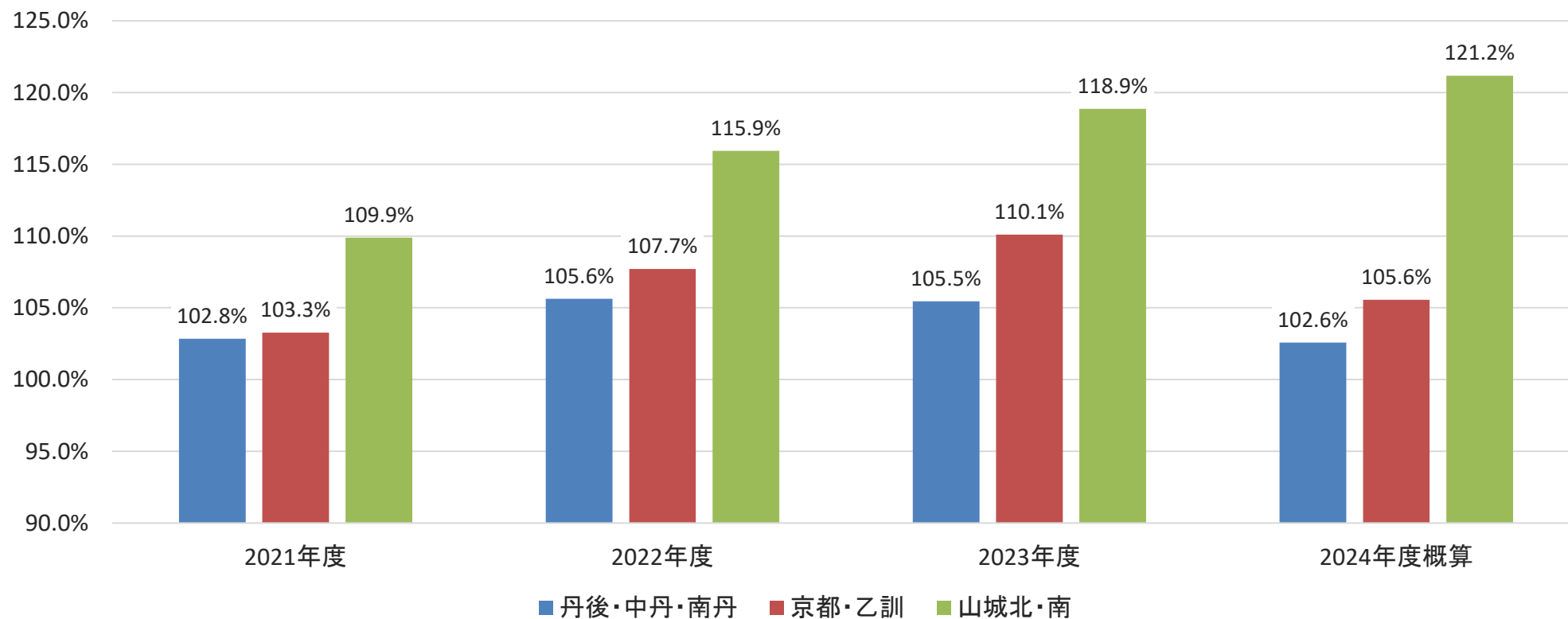
- 収入合計は漸増している



医療圏別の医業費用合計の2019年度増減率(%)

- 南部は他地域より医業費用合計の占める割合が大きい
- どの医療圏も2023年度まで増加し続けた

京都府全体の医療圏別医業費用合計増減率

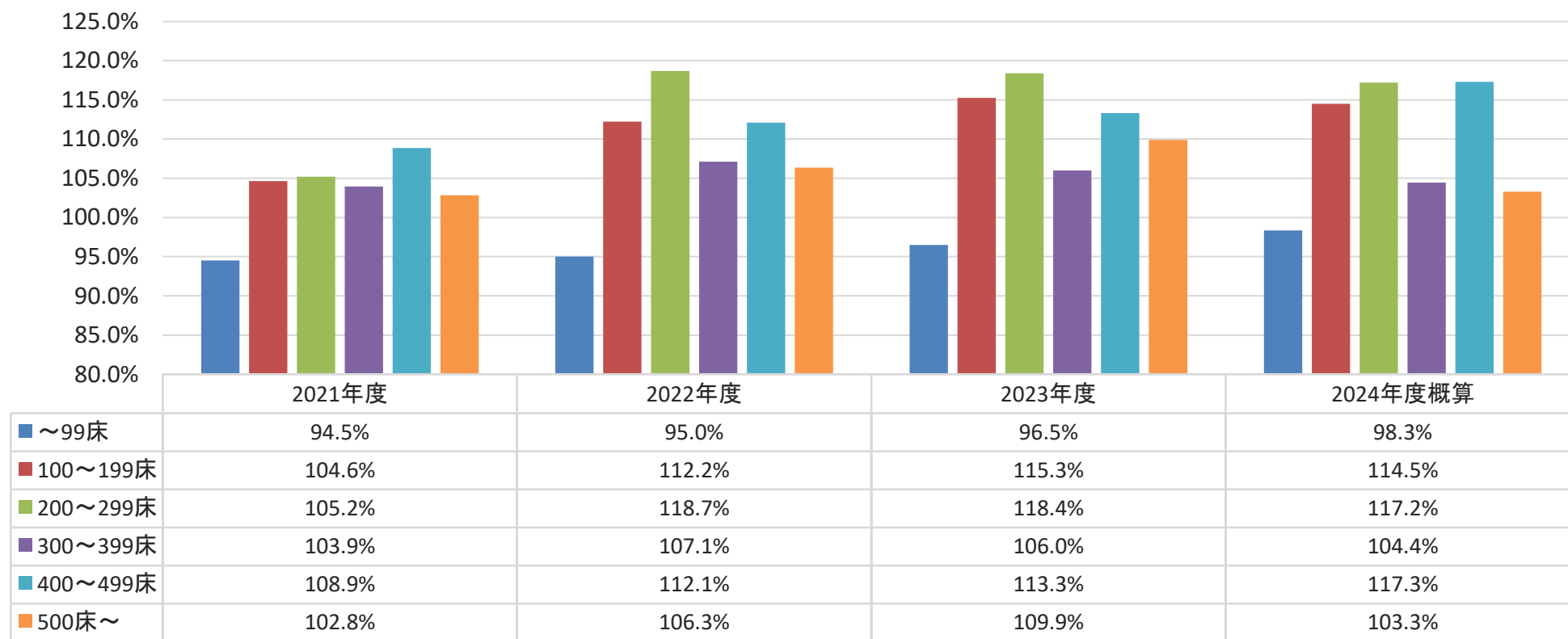


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の医業費用合計の2019年度増減率(%)

- 医業費用合計は病床数による特徴はない

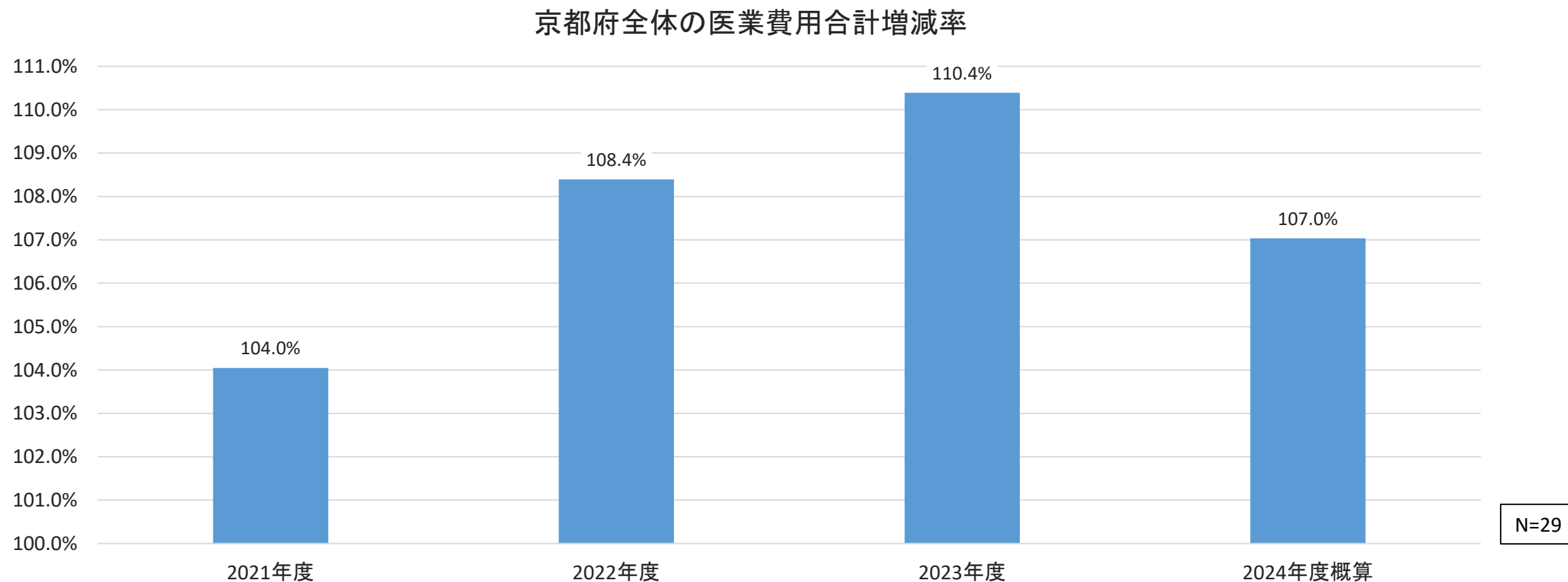
京都府全体の許可病床数別医業費用合計増減率



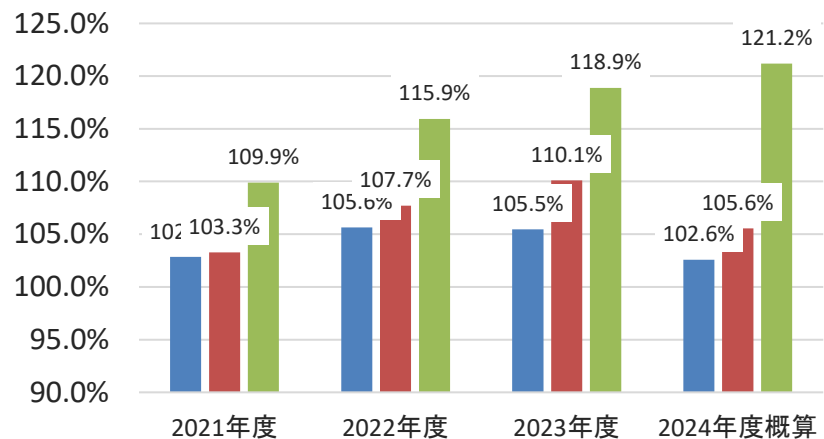
~99床 : N=1
 100~199床 : N=7
 200~299床 : N=4
 300~399床 : N=9
 400~499床 : N=3
 500床～ : N=5

京都府全体の医業費用合計の2019年度増減率(%)

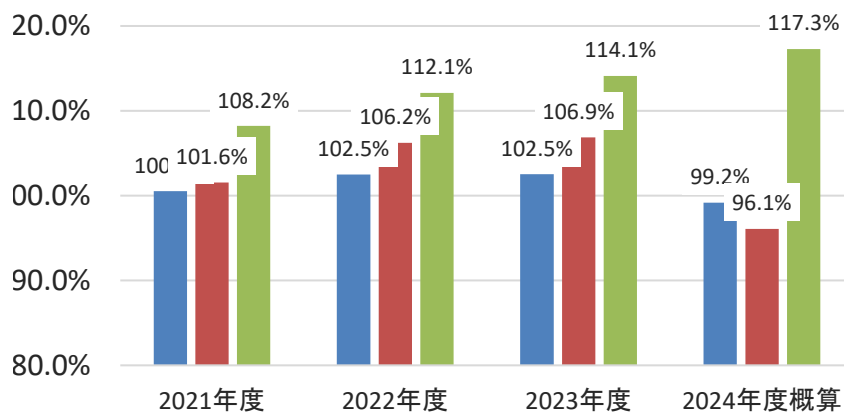
- 医業費用合計は増大している



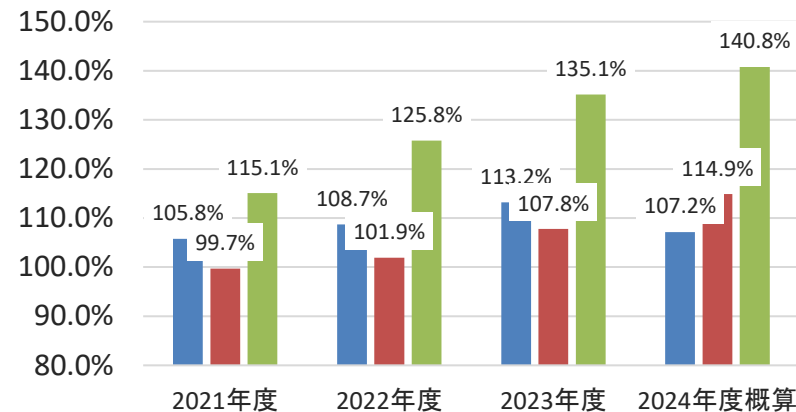
京都府医療圏別医療費用合計増減率



京都府医療圏別給与費用増減率



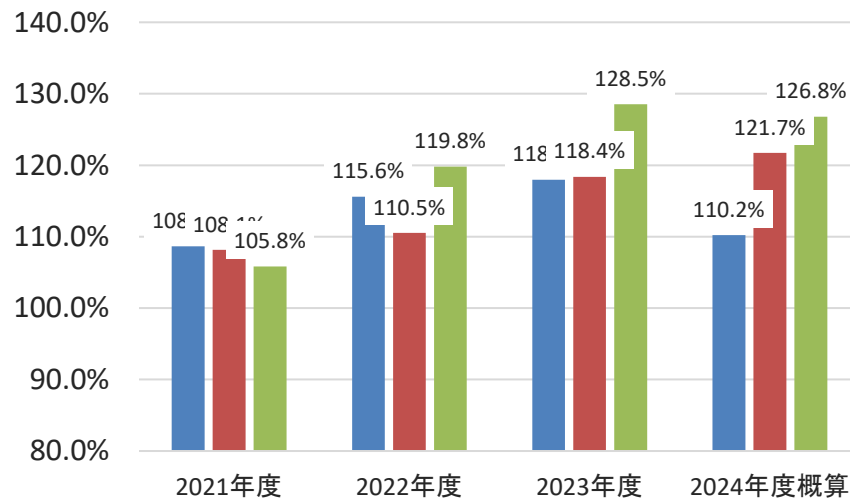
京都府医療圏別医療材料費用増減率



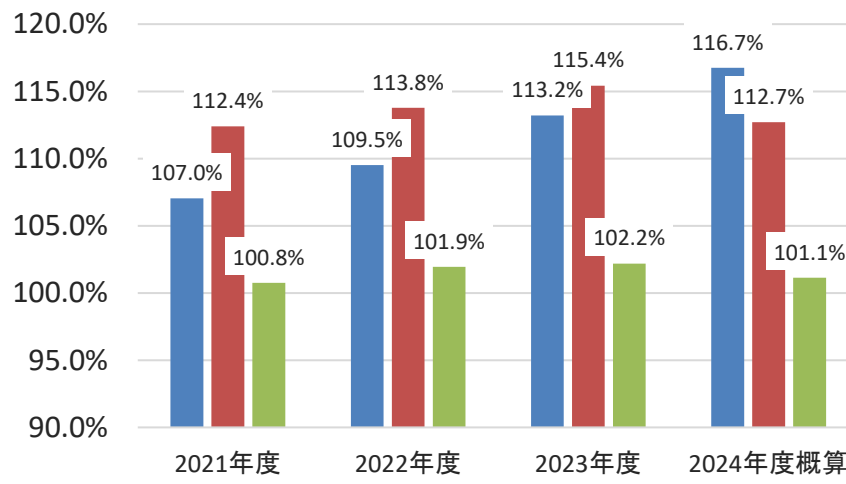
■ 丹後・中丹・南丹 ■ 京都・乙訓 ■ 山城北・南

- 北部では医療材料、医薬品、委託の上昇率が高い
- 京都乙訓では医薬品、委託の上昇率が高い
- 南部では他医療圏より費用の上昇が大きくその中で医療材料、医薬品費用が大きく委託費は少ない

京都府医療圏別薬品費用増減率

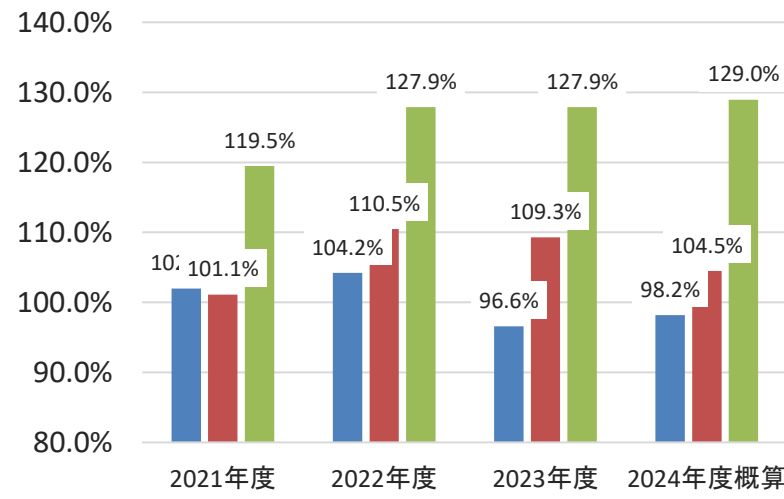


京都府医療圏別委託費用増減率



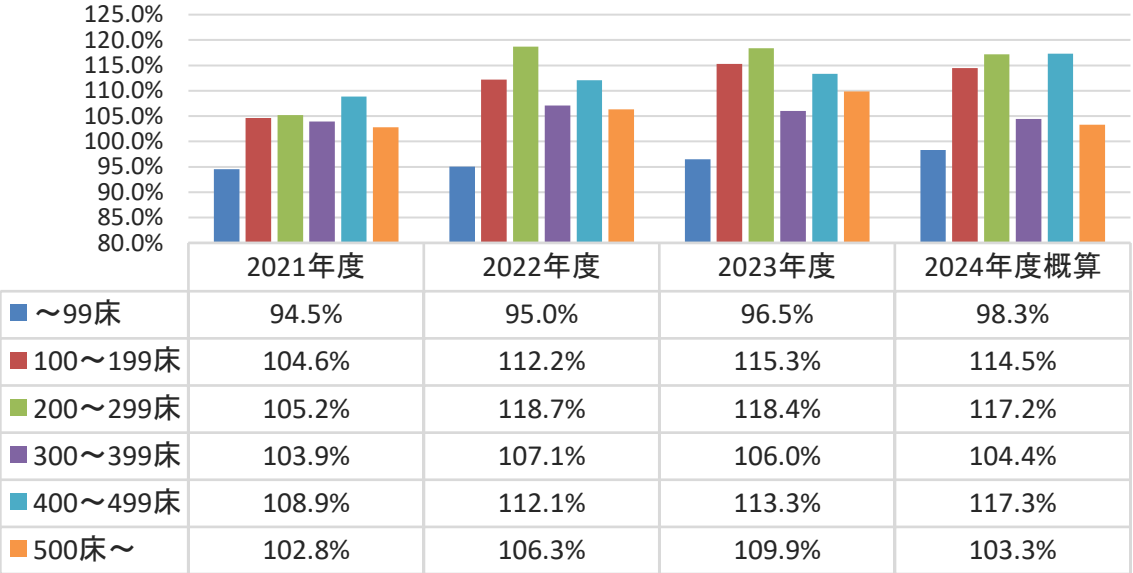
■ 丹後・中丹・南丹 ■ 京都・乙訓 ■ 山城北・南

京都府医療圏別その他医業費用増減率

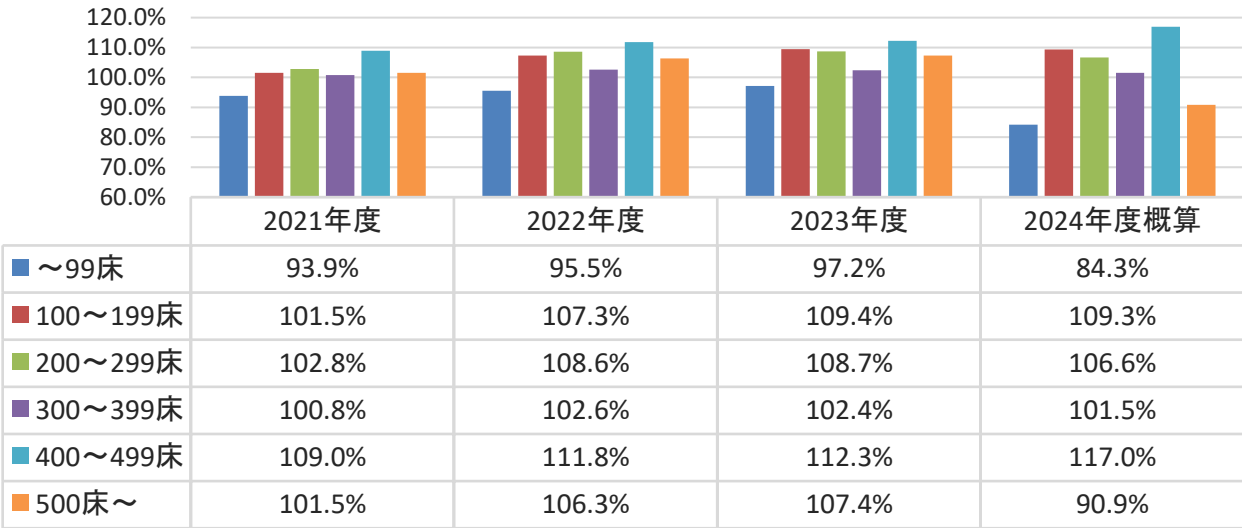


■ 丹後・中丹・南丹 ■ 京都・乙訓 ■ 山城北・南

京都府全体の許可病床数別医業費用合計増減率

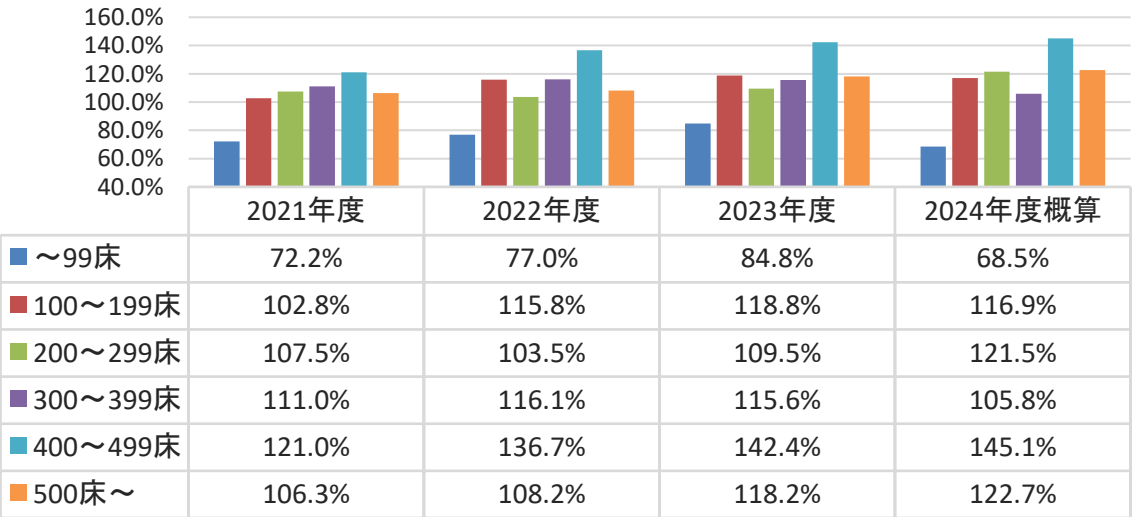


京都府全体の許可病床数別給与費用増減率

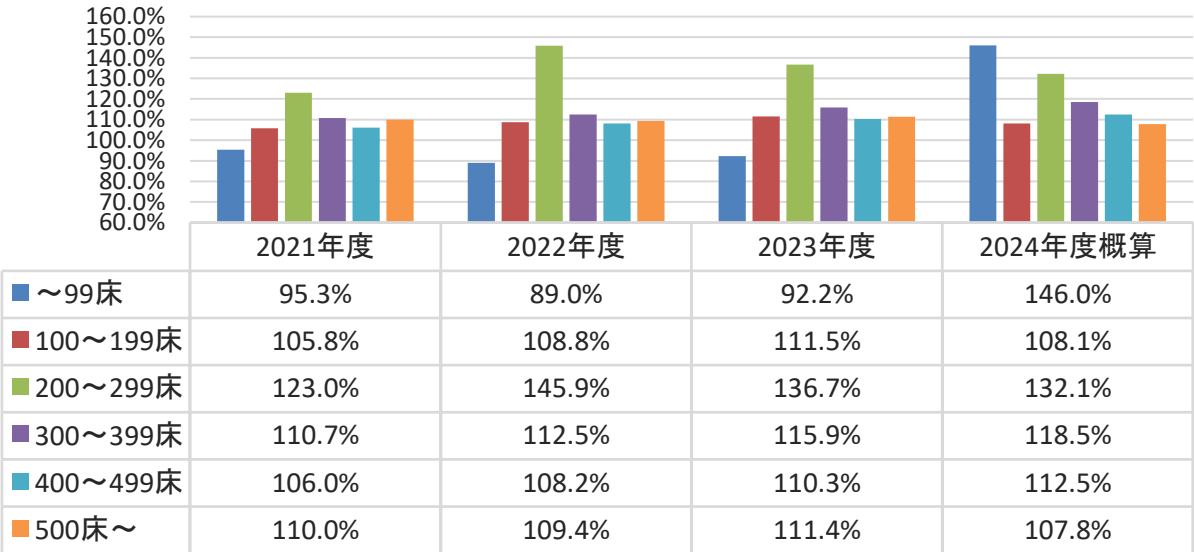


● 費用については病床別に大きな特徴はみられない

京都府全体の許可病床数別薬品費用増減率

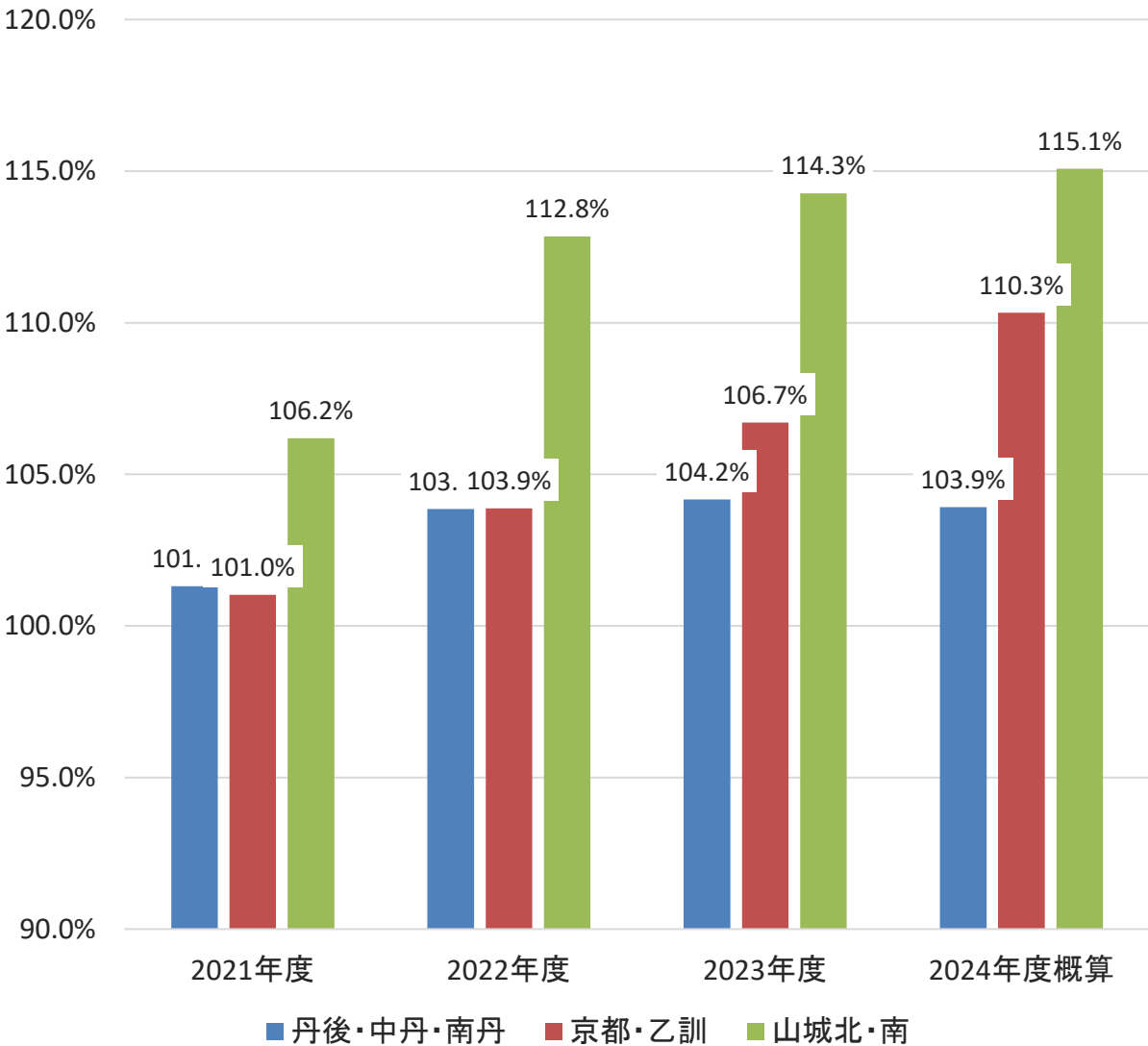


京都府全体の許可病床数別委託費用増減率

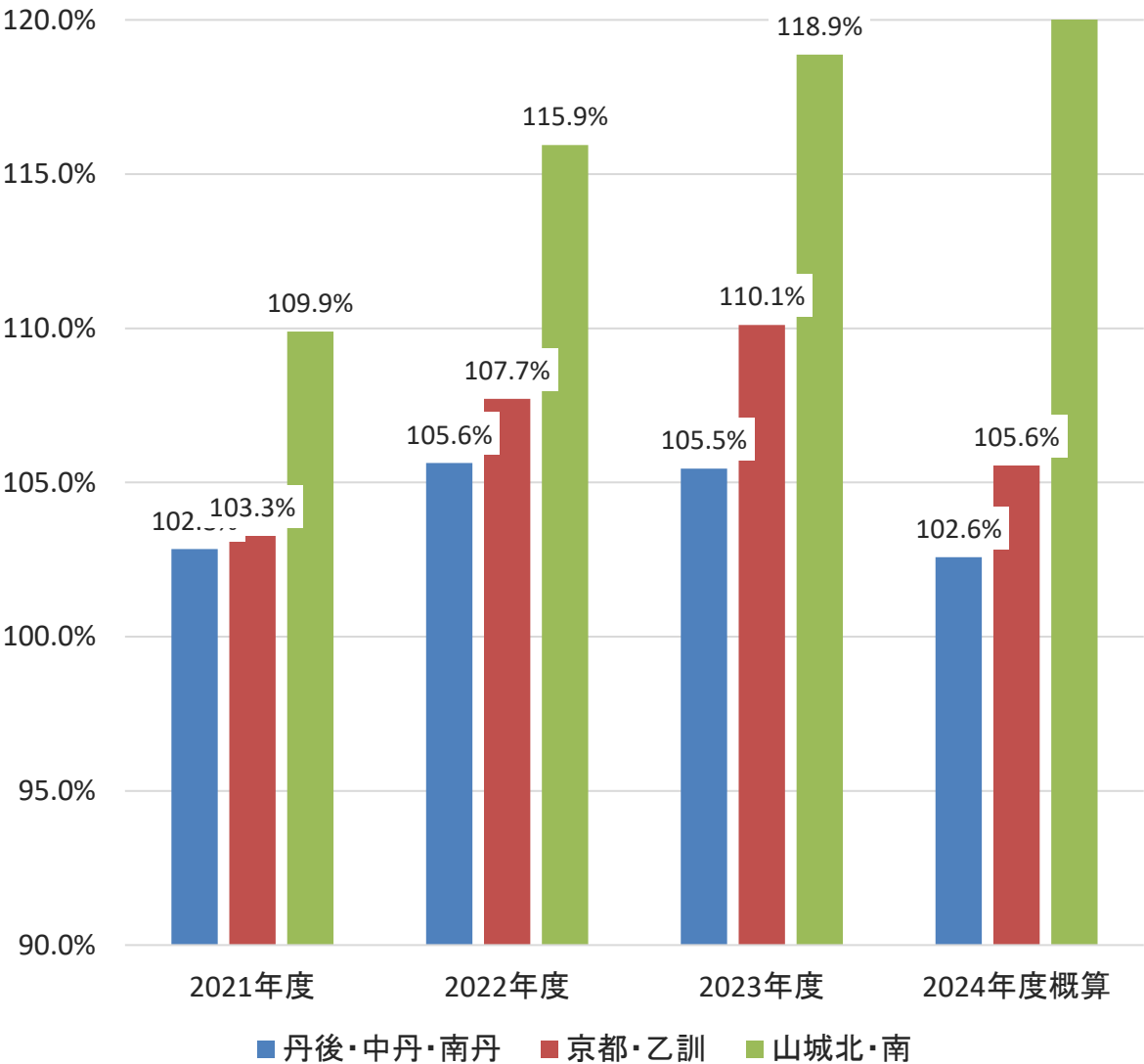


● 2023年度までの地域においても医業費用の増加が医業収入の増加を上回る

京都府全体の医療圏別収入合計増減率



京都府全体の医療圏別医業費用合計増減率

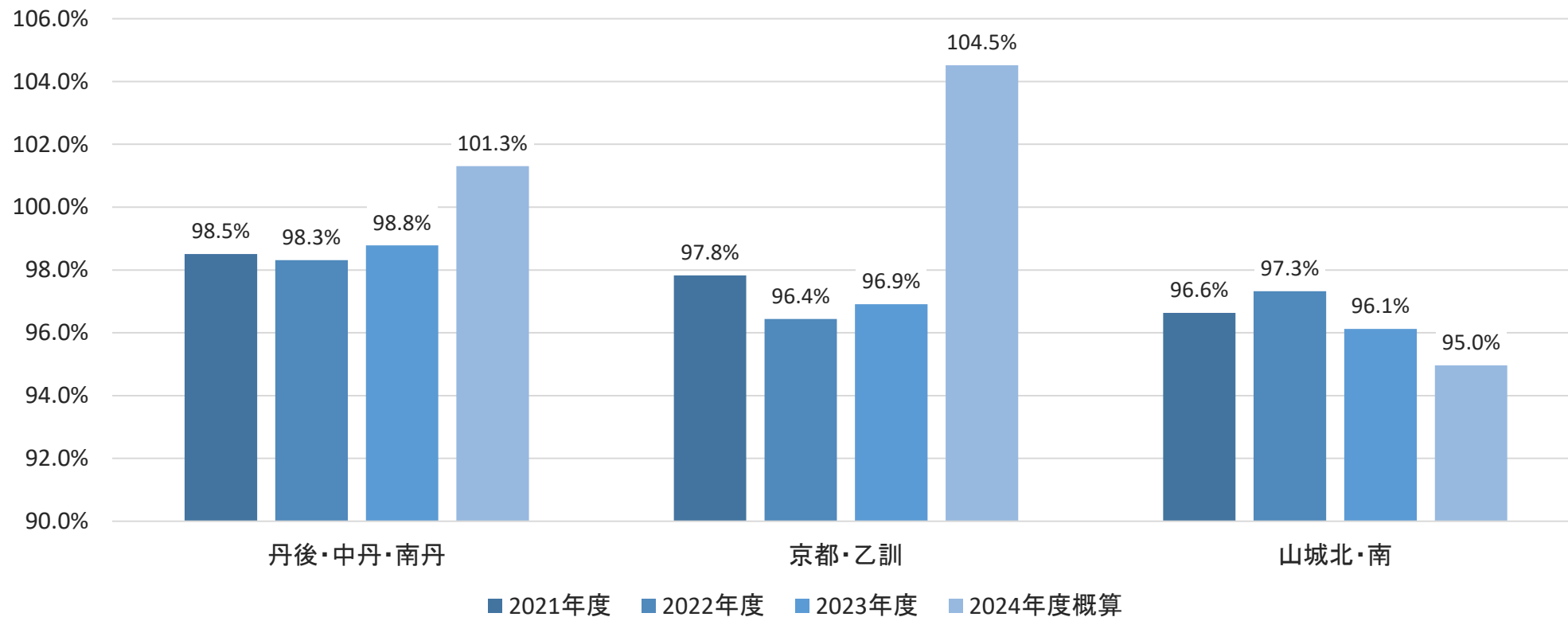


医療圏別の医療収支比率の比較(%)

- 2023年度まで医療収支はどの地域も低下している

医療収支比率＝医療収益／医療費用

医療圏別年度別医療収支比率

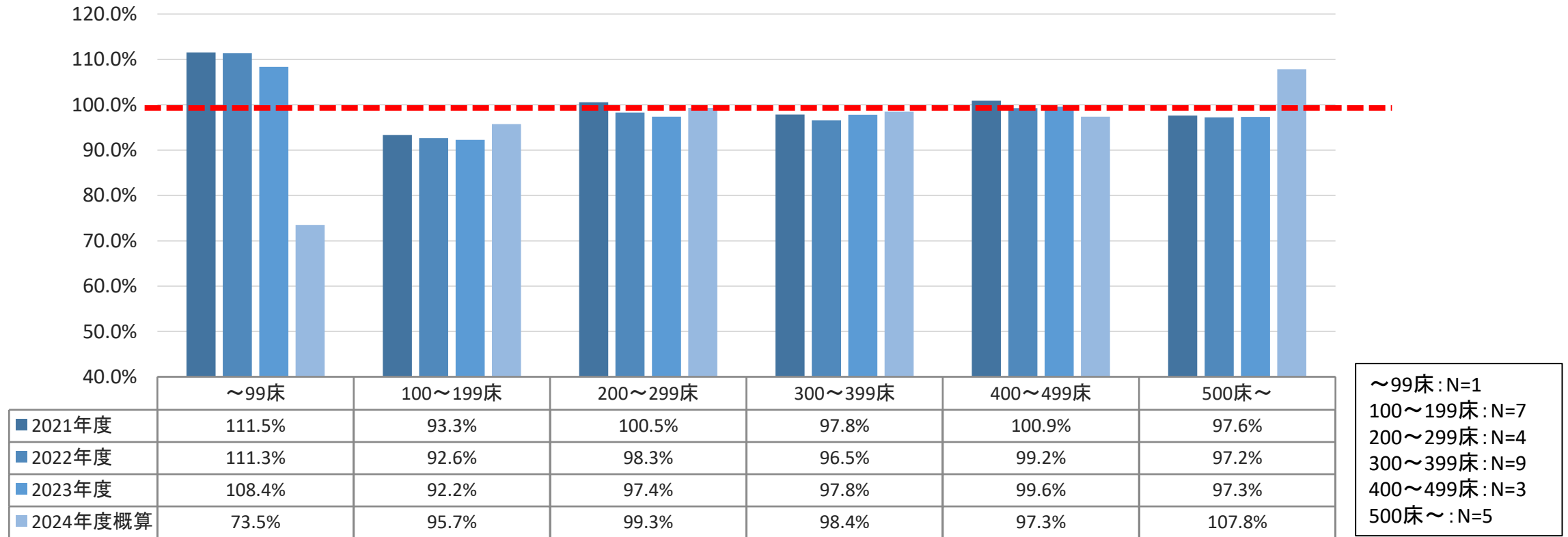


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=7

許可病床数別の医業収支比率の比較(%)

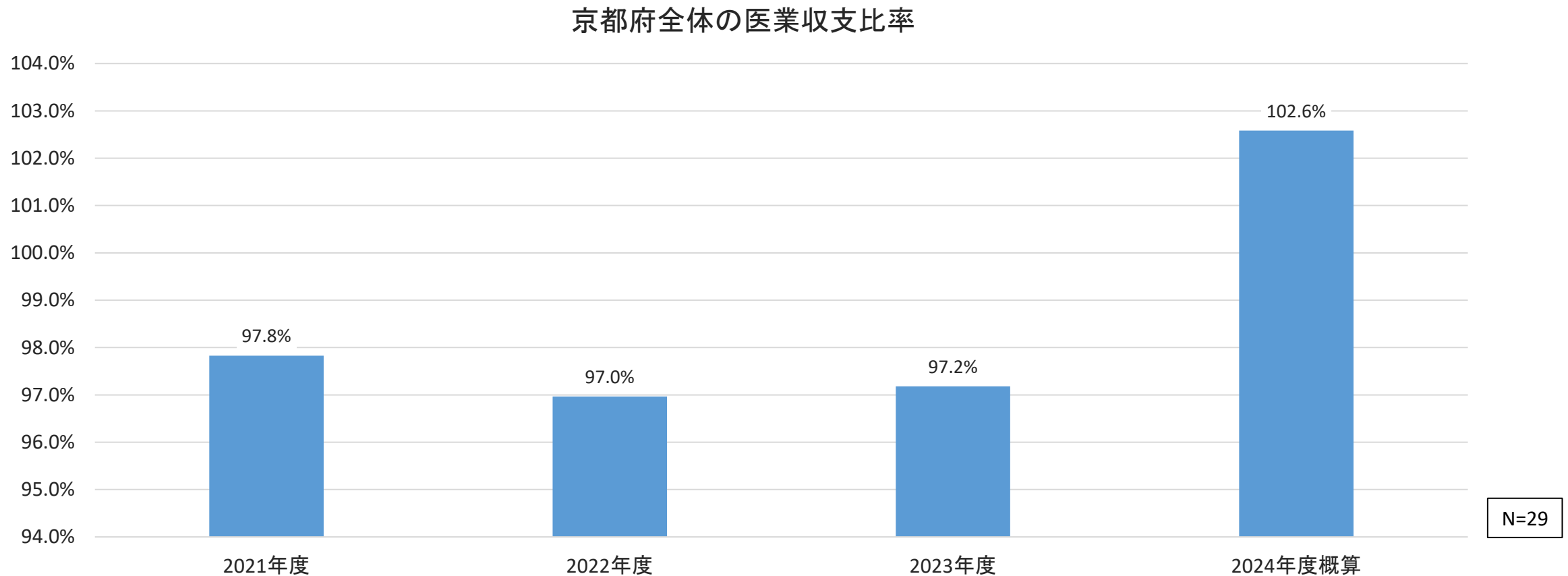
- 医業収支比率は2023年度まで100%未満
- 病床別の特徴は見られない

許可病床数別年度別医業収支比率



京都府全体の医業収支比率の比較(%)

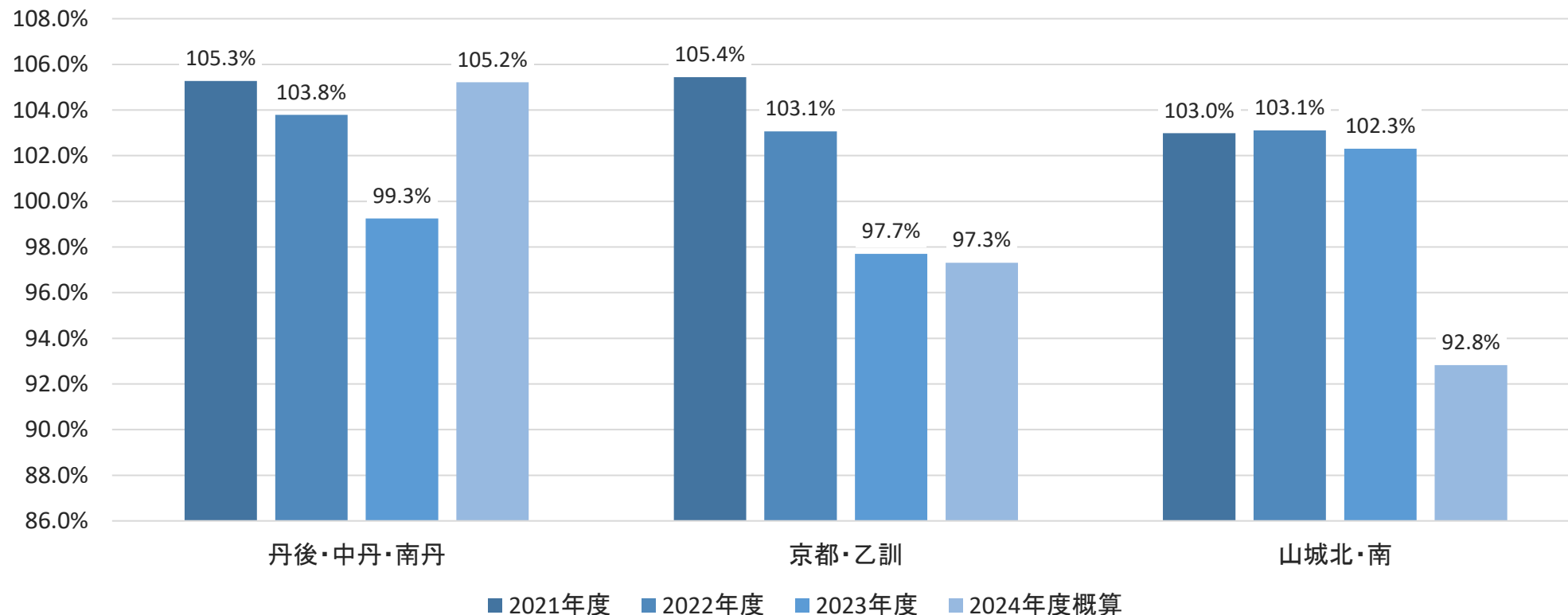
医業収支比率は2021年度から2023年度まで2019年度より不良であった



医療圏別の経常収支比率の比較(%)

- 北部では2023年度は低下したがそれ以外は上昇した
- 京都乙訓圏では2021, 2022年度は2019年度より良好であったが2023年度からは不良であった
- 南部では2024年度のみ不良である可能性がある

医療圏別年度別経常収支比率

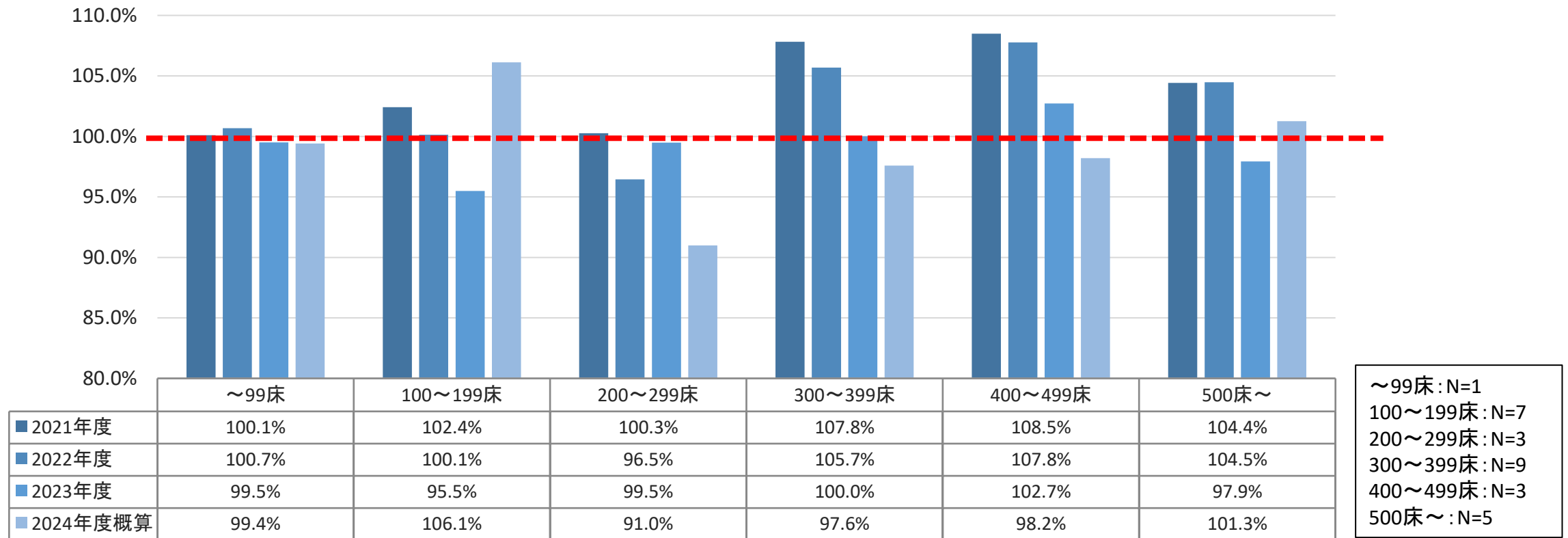


丹後・中丹・南丹：N=9
京都・乙訓：N=13
山城北・山城南：N=6

許可病床数別の経常収支比率の比較(%)

- 各病床数で2021年度、2022年度は2019年度より良好であり2023年度は多くで減少している

許可病床数別年度別経常収支比率



京都府全体の経常収支比率の比較(%)

- 2021年度、2022年度は2019年度に比し良好であったが2023年度、2024年度は不良であった

